

明治三十九年九月四日接受

水六

一

受給一五八二九號

御照會ノ趣了業四十年度ノ漁業処分ハ三
 十八年度ニ於テ漁業特許ヲ受ケタル者ニ
 シテ納期内ニ特許料ヲ完納シ成規ヲ遵
 守シ現ニ漁業ヲ営ム者ニ對シ八月十一日
 附ヲ以テ別紙甲號ノ如キ通知書ヲ發シ
 之ニ依リ期日迄ニ願書ヲ差出シタルモノ
 ニ對シテハ別紙乙號ノ如キ漁業特許元ヲ
 交付スル豫定ニ有之候尚ホ競争入札ノ
 結果落札者ニ特許スルキ内容モ右ノ様
 見込ニ有之候條右様御承知相成度此般
 及回答候也

東京

取調課

明治三十九年八月三十日

樺太民政署民政長官熊谷喜一郎



外務省通商局長石井菊次郎殿

MT 5.2.17.12 616

MT 5.2.17.12 615

5-0838

0006

外務省ノ一紙件

甲字

民水第八六號

漁場番號第 號

漁場ニ於テ明治四十年ノ漁業期

ニ於ケル鮭鱒鯉漁業建網一統此漁業料金

田(鯉)漁

業ニ限リ別ニ副網トシテ建網一統ヲ使用セントスルトキハ別ニ

金 田西起網又ハ身網ノ長廿四十間以上ノモノヲ使用セ

ントスルトキ亦全シテ以テ特許スベキニ付本通知書到達

次第特許ヲ受クベキヤ否電報ヲ以テ直ニ何分ノ回答可

相成且ツ願書ハ別紙様式ニ準シ本年 月 日迄ニ當

署ニ提出可有之此段及通知矣也

追テ本文指定期日迄ニ願書提出無之トキハ

出願セサルモノト見做ニ處分可致此段申添矣也

明治三十九年八月 日

陸

軍

樺太民政署

殿

MT 5.2.17.12

618

MT 5.2.17.12

617

5-0838



国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

漁業特許願(書式)

一 漁場番號第 號

一 漁場名稱

一 漁業種類

一 漁網ノ種類及敷 建網壹統

一 使用船舶敷

一 漁丈敷

前記漁業特許相成度特許相成矣上ハ御規則令等堅ク遵守可仕矣此段奉願矣也

明治三十九年 月 日

原籍

住所

氏

名

印

樺太民政署民政長官熊谷喜一郎殿

陸軍

練漁業ニ別ニ副建網ヲ使用セントスルトキハ
練漁業ニハ別ニ副建網壹統
西起網ヲ使用セントスルトキハ「練漁業ニハ西起網
身網ノ長ク四十間以上ノモノヲ使用セントスルトキハ
身網長ク何間ト記入コト

MT 5.2.17.12 619

5-0838



乙号

第

號

漁業特許證

原籍
住所

漁場
番號

漁場
名稱

漁獲物
種類

漁網種
類及數

特許
期間

漁業
料額金

特許ノ日ヨリ明治四十年 月 日 至 月 日

右漁業特許ヲ與ウルモ也

明治三十九年 月 日

樺太民政署民政長官熊谷喜一郎

MT 5.2.17.12 620



心得書

第一條 漁業ノ特許ヲ受ケタル者ハ無料ニテ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

一、薪炭用住宅其ノ他漁業ニ要スル建築及工作用並漁船漁具用ノ爲メ漁場附近ノ山林ヲ伐採スルコト但シ海面ヨリ展望シ得ベキ場所展望區域ヨリ十町以内及河川ノ沿岸一町以内ハ此ノ限りニ在ラズ

前項ニ依リ伐採シ得ヘキ區域内ト雖官ハ伐採ヲ禁止シ又ハ伐採區域若ハ樹木ヲ指定スルコトアルベシ

一、住宅其ノ他漁業ニ要スル建築及工作用敷地、漁船漁具置場、朝乾場、海産乾場並蔬菜園ニ必要ナル海濱土地ヲ使用スルコト前項土地ノ面積ハ官ニ於テ之ヲ指定スルコトアルベシ

第二條 漁業料ハ特許証交付ノ際其ノ百分ノ五十ヲ納付シ明治四十年五月三十一日迄ニ百分ノ二十五ヲ納付シ明治四十年七月三十一日迄ニ殘額ヲ納付スルモノトス若シ納付期内ニ漁業料ヲ納付セザルトハ特許ノ效ヲ失フモノトス

第三條 既納ノ漁業料ハ如何ナル場合ト雖之ヲ還付セズ

第四條 本建網間ノ距離ハ鮭鱈漁ニ在リテハ十八町、鯨漁ニ在リテハ九町ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 副建網ハ本建網ヲ距ル百五十間以内ニ於テ之ヲ使用シ其ノ沖出間數ハ本建網ノ沖出間數以内タルベシ

兩起網ハ本建網ノ外ニ副建網ヲ使用スルモノト見做ス身網ノ長サ四十尋以上ノモノ亦同シ

第六條 漁業上ノ設備及方法ニ付官ノ指示スル所ハ違反スベカラス

鮭鱈ヲ以テ搾柏ヲ製造スベカラズ

第七條 條約ノ結果其ノ他ニ依リ本特許消滅シ若ハ無効ニ歸シタル場合ト雖官ハ之カ賠償ノ責ニ任セス

第八條 漁獲高其他漁業ニ關スル事項ハ官ノ定ムル様式ニ依リ之ヲ詳記シテ報告スベシ

第九條 營業上ニ關レテ使用人ノ爲シタル行爲ハ特許ヲ受ケタル者其ノ責ニ任スベキモノトス

第十條 現行並將來發布セラル、軍令其ノ他ノ諸規則及本心得書ハ嚴ニ之ヲ遵守スヘシ之ニ違反スルトキハ相當所罰ヲ爲スノ外特許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトアルヘシ



jusqu'au 14 janvier 1910. Le Sou-
verainement impérial du Japon
s'étant engagé, aux termes de
l'article I^{er} du Traité de Ports-
mouche, à maintenir les registres
navales dans le plein exercice de
leurs industries et droits de
propriété dans sa partie de cette
île qui lui a été cédée, il s'en
suit que le Karamaruko a le
droit de continuer à exploiter
ces recherches jusqu'au terme sus-
indiqué, et dans les mêmes condi-
tions que celles stipulées dans son
contrat avec l'autorité russe.
Ses illes agréés, charbonnier de
Maroussi, l'assurance de ma-
très-haute considération.

G. B. Barkunov

MT 5.8.17.12

622

24 août
Sébastopol 1906

Légation
Impériale
de Moscou

#614.

至急船

Monsieur le Marquis,

Bon, j'ai vite à la cour-
pondance échangé entre les
prédécesseurs de votre Excellence
et moi au sujet des droits des
concessionnaires russes de pêche-
ries dans l'île de Sakhaline,
j'ai l'honneur de vous faire, par
venir, ci-joint, la traduction en
français, japonaise du contrat
entre les autorités russes et
M. Karamzenko, un de ces conces-
sionnaires.

Cette Excellence voudra
bien constater que par ce contrat,
M. Karamzenko a acquis le
droit d'exploiter certaines
pêcheries dans l'île de Sakhaline

son Excellence

le Marquis Saïongi

Ministre des Affaires Étrangères

MP. 5.8.17.12

623

明治二十九年九月六日接致

香島
F. H.

受第一五七三

翻譯長

西國事務長

事務長

次官 西國事務長 西國事務長 西國事務長
西國事務長 西國事務長 西國事務長 西國事務長
西國事務長 西國事務長 西國事務長 西國事務長
西國事務長 西國事務長 西國事務長 西國事務長

外務省

西國事務長 西國事務長 西國事務長 西國事務長
西國事務長 西國事務長 西國事務長 西國事務長
西國事務長 西國事務長 西國事務長 西國事務長
西國事務長 西國事務長 西國事務長 西國事務長

西國事務長 西國事務長 西國事務長 西國事務長
西國事務長 西國事務長 西國事務長 西國事務長
西國事務長 西國事務長 西國事務長 西國事務長
西國事務長 西國事務長 西國事務長 西國事務長

MP 5.2.17.12

625

MP 5.2.17.12

624

了る事あり、日本帝國政府にポーランド
條約十條ノ規定を以て、四島ノ日領地
讓與せられたる區域にテ露國臣民の完
全ノ營業業に從事し且對露國條約に
便スルに必要ノ支持セラルル事旨の布告セラレシ
ルに依り、ウラマレニシキ女ニ對テ、期限マデハ
其ノ居留地首長トノ契約ノ定ムル事トシ
外務省

外務省

一條件ヲ以テ、如左條約ノ如ク引渡
ル事あり、臣事スルニ權無ク、如左條約
ニ依リ、

此條約ノ下、同ノ島ニテ如左條約ノ表ニテ
於テ、

4961 字の如き事あり、

MT 5.2.17.12

627

MT 5.2.17.12

626

外務省に提出

(謄本寫し翻訳)

契約書

十九百年八月三十日「サカレン」島軍務知事陸軍少将「リヤ」
「アストラハン」平民「ガウリール」がウリール「アモソフ」クラ
マレンコト左ノ契約ヲ結ブ

一、「アストラハン」平民「ガウリール」クラマレンコトニ十九百年一
月一日迄「サカレン」島ニ於テ魚撈及水産物製造ノ為メ「ア
ニワ」及ヒ「テルペー」ニヤ「湾」ニ於テ左記ノ箇所ヲ貸付ス
イ、「ボロナヤ」河分譯

投網場四箇所、地區 九箇所
此全面積ハ四「デニヤチ」ナ八百平方「サセ」ニニテ細別ス
レハ左ノ如シ

外務省

第一、「ペルロヤ」パ「チ」湾地區四箇所全面積ニ「デニヤチ」ナ
第二、同湾内投網支場ハ「ロソニヤ」グ「バ」ニ箇所アリ

各投網場毎ニ二百平方「サセ」ノ地區アリ
第三、「ボロナヤ」河投網場ニ箇所ハ「河口」ヲ距ル一露里ノ河區
ヲ合シ、一投網場毎ニ二百平方「サセ」ノ地區アリ、別ニ此河
ロニ近ク其右岸ニ於テニ「デニヤチ」ナノ地區ヲ有ス

ロ、「アニア」湾分訳
第一、「サウイー」ナ「パ」チ「湾」

二千四百平方「サセ」ノ地區ヲ有ス
湾ニ接近シテ補助區即チ「ウオエ」ウ「ド」ス「カヤ」
「パ」チ「湾」

四百八十平方「サセ」ノ地區ヲ有ス
「ウオド」
「パ」チ「湾」

MT 5.2.17.12

629

MT 5.2.17.12

628

千七百五十平方「サーセン」地區ヲ有ス

此海岸線長二百五十「サーセン」

第二、「フィヤチーナ」地區ヲ有スル「リヤ、トマリ」灣及ヒ之ニ

隣接セル「プーチ」灣

千六百平方「サーセン」地區ヲ有ス

ハ、「テルペーヤ」灣ニ九海面區

面積二百平方「サーセン」宛「投網場」ヲ有ス

内三箇所ハ「ポロナヤ」河口ヲ左ハ五露里半、六箇所ハ同河

ロヨリ右ハ七露里

以上ノ地區及ヒ「投網場」ハ自然ノ俦之ヲ「ク라마レンコ」ニ貸付

セラル、ヲ以テ「ク라마レンコ」ハ之カ為ソ派遣セラレタル區劃者

ヲ自己ノ計算ニテ領嶼區域ハ招聘スルヲ要ス

作製セラレタル圖ハ之ヲ「サガレン」島軍務知事ニ於テ官署

外務省

ニ傳管シ其証明済ノ謄寫圖ヲ「ク라마レンコ」ニ附與スルモノトス

但シ謄寫費用ハ「ク라마レンコ」ノ負担トス

二、前条ニ示シタル地區及「投網場」ハ千八百九十九年一月一日ヨリ起

算シ借用期限ノ前六箇年ハ之ヲ無償ニ「ク라마レンコ」ノ使用

ニ承スルニ前記期限内ハ日本製造ノ方法ニ依ル「鯨糟」及他ノ

魚類ノ製造品ヲ除キ「ク라마レンコ」ハ「サガレン」島輸出水産

品ノ税金、漁業ニ必要ナル建築木材及燃料ノ為ノ其近

傍ノ指定セラレキ場所ヨリ得タル木材ノ代金ヲ免除セラレヘシ

但シ「鯨糟」製造ノ為ノ使用シタル燃料ハ千九百九十九年一月一日

沿馬龍江州軍務知事ノ制定シタル表目ニ依リ之ヲ支拂フ

ヘキモノトス

其他「ク라마レンコ」ハ借用期限内「サガレン」島沿岸漁業ニ

関シ官憲ノ制定シタル又制定セラレキ規則ヲ遵守スヘシ

MT 5.2.17.12

631

MT 5.2.17.12

630

免稅借用期限經過後即チ千九百五年一月一日以後ノ借用期
 限中ハクツラマレニコハ税金其他制定セラタル公課ニ関シテハ
 千九百九十八年六月廿六日閣議決定ノ上勅裁ヲ経タル規定ニ基
 キ漁業ノ為メ商人「セメソフイ、デニヒ」ニ漁區貸付ヲ許可
 シタルト同條件ヲ遵守スヘシ即チ本契約ノ第一條ニ指名セル
 漁區使用料トシテ借用區面積一平方サーゼン毎ニ一哥宛
 合計二百三十二留七十哥ヲ一箇年前即チ各借用年度ノ一
 月十五日迄ニ國庫ニ納付スヘシ
 又漁期經過後其年ノ十一月三十日迄ニ借用年度ノ終迄ニ獲
 得シタル魚類及水産製品ノ数量ニ對シ官憲ノ制定シタル又ハ
 制定セラレキ公課ヲ納付ス可シ、營業上使用シタル木材ニ對
 シテハ他ノ露國人ト同等ニ支拂フ可シ、
 三、借用人ハ地方住民カ自己使用ノ為メノ海産業及ヒ官憲ヨリ
 外務省
 海産採集業其他一般海産業權利ヲ附與セラルヘキ凡テ
 ノ營業者ヲ妨害シ且ツ同人ニ貸付セラレタル沿岸ニ於テビチ
 干フニクヲ使用スルヲ妨害スルヲ得ス
 四、借用人ハ本契約書ニ指定セラレタル漁區ニ於テハ借入ノ最初
 五箇年ハ労働者數ノ尠剩餘ノ年ハ尠剩五分以上ノ露國
 臣民ヲ使用スヘシ、若シ借用人ノ營業ニ際シ露國臣民労働者
 カ指定歩割ニ相當セサルトキハ借用人ハ不足労働者有ルニ付官
 業ニ雇入シタル露國労働者ノ平均賃銀ニ倍ニ相當スル罰金ヲ
 國庫ニ納付スヘシ、營業地ノ事務管理ハ常に露國人ノ手ニ依
 リテ為サルヲ要ス、
 五、漁業期中労働者ノ医療ノ為メクツラマレニコハ自費ヲ以テ十
 一箇所ノ營業區ヲ有スル「テルペニヤ」灣ニ「ゴルサコフ」區医ノ指定セ
 ル藥劑及ヒ医療材料ヲ貯ヘ置キ「ナイエ」村又ハ「チフメネー」

MT 5.2.17.12

633

MT 5.2.17.12

632

一、「港」在ル監獄署看病人ニ換期中一箇月五十留ヲ支拂ヒ
 医療ヲ求ムヘシ同看病舎閉鎖ノ後「クラマレニコ」自費ヲ以テ
 看病人ヲ給養シ置クコトヲ要ス但「アニワ」湾營業地ハコル
 サコ「港」ヲ近距離ニ存在シ同港ニハ常ニ監獄医員在任スル
 ヲ以テ同營業地ニ看病人設置スル義務ナキモノトス
 六、クラマレニコニ貸付シタル區域ハ農務國有財産發着ノ許
 可及ヒ「サカレ」島軍務署ノ承認在ルニアラサレハ一人又ハ數
 多他人ニ讓渡ヲ許可セザルモ「クラマレニコ」ノ事業擴張ノ
 為メ共同者ヲ採用スルコトハ禁止セラルコトナシ
 七、借入契約期限經過後ハ契約期限終了前二箇年以内ニ借入継
 續ノ希望ヲ申出ララル場合ニ限り「クラマレニコ」該區域借入ノ
 新契約ヲ官憲ト結ビ優先權ヲ附與セラレヘシ
 八、借入人ハ後日換業場ヲ賃借保有セサルニ至ルトキハ後継者有ニ
 營業建築物ハ相互限定ノ上相當ノ代價ヲ以テ之ヲ讓渡スヘ
 ク該後継者ハ之ヲ必ス継承スル義務ヲ有スモノトス
 若シ借入人ト後継者トノ間ニ該物件ニ関シ四滿ル限議調ハサル
 トキハ双方ヨリ借入人其區域ヲ賃借保有セザルニ至リタリヨリ
 三箇月以内ニ限議不調ノ原因ヲ詳細ニ具シ「沼尾」龍江州國
 有財産管理署ニ届出ツコト且ツ同時ニ其撰定シタル仲裁
 人ヲ指定スルヲ要ス然ルトキハ管理署自ラ之ヲ調停シ又他ニ
 調停ヲ委任シ該仲裁人ノ評價ニ依リ建築物ノ價額ヲ決
 定セラルモノトス但シ官憲ハ斯ル建築物ヲ引受クル義務
 ナキモノトス
 九、クラマレニコノ企業ニ際シ外國人ノ關係者トシテ加入セシメタルト
 キハ「クラマレニコ」ハ其與ハ凡テ免稅權及ヒ他ノ外國人又ハ露
 國企業者ヨリモ優等ナル特權ヲ失ヒ且ツ借用區域ノ營業

外務省

MT 5.2.17.12

635

MT 5.2.17.12

634



ニ付テハサガレシ島漁業ノ為メ政府ヨリ發布セラレタル及ヒ發
布セラルルキ凡テノ規定ニ従フヘシ

十、免稅借用期限六箇年経過後即チ千九百五年一月日以後本
契約第二條ニ示シタル期限中ニクマレニコハ土地使用料、魚稅
及魚產物稅ヲ國庫ニ納付スヘシ、其滞納シタルキハ斯ル場合
ノ為メ法律ヲ以テ定メシキ千九百十三年發布ノ納稅條
例第八編第一章第七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、
八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、
九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、
九十九、百條及ヒ其他ノ
各項ヲ適用シ罰金ヲ課セシヘシ、但シ納稅最終期限ハ三箇
月以上延長スルヲ得ス

十一、免稅借入六箇年ノ終期迄ニ即チ千九百五年一月日迄ニクマ
レシニコハ本契約ニ依リ借入シタル全區域ニ營業ヲ開始シ且ツ労働
者居住ノ為メ必要ナル一時的又ハ永久的ノ屋舎ヲ建築スルヲ
要ス

外務省

前項ノ要件ヲ履行セルトキハ借用人ノ指定シタル期日迄ニ營業
ヲ開始セラレサル區域又ハ居住ノ為メ必要ナル屋舎ヲ建築セサル區
域ヲ使用シ得サルニ至レシ

其他各區域集合所ノ中央ニキル地点ニ獲得シタル產物、魚具
及ヒ其他ノ營業上必要ナル物件ヲ保存スル為メ堅牢ナル倉庫ヲ
建築スルヲ要ス

十二、クマレニコハ本契約ノ各項ヲ嚴重ニ且ツ誠實ニ遵守ス
ヘキハ勿論、其中ノ一各項タリトモ遵守セザルトキハ契約不履行
ト看做スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ免稅借用六箇年即チ千九百五年迄ハ
クマレニコハ其借用セル區域ノ營業權ヲ失フヘシ、但シ違約
金ヲ納付スヘシ及ビト雖モ借用區域ニ建設セル凡テノ建築物ハ
本契約第八條ノ規定ニ基キ継承者ニ讓渡スノ義務ヲ有

MT 5.2.17.12

637

MT 5.2.17.12

636

5-0838



ス、免稅借用年限ニアラサル、貸入ノ借用年期中ニ於テハ前記ノ外ニ違約金トシテ違約年度ニ對シ其借用債金ノ三倍ノ金額即チ百九十圓十哥ヲ納付スニ付、納付シ得サル場合ハ區域内ノ建築物及ヒクラマレニコニ所屬セル營業物ハ官ニ沒收セラルヘシ

十三、本契約締結ニ要スル費用及ヒ契約記載ノ証券用紙ノ代價ハクラマレニコノ負担タルヘシ

十四、本契約ノ原本ハサカレシ島軍務知事ニ於テ之ヲ官署ニ保存シ證明済ノ契約謄本ヲクラマレニコニ交付ス、

原本ハ「サカレシ島軍務知事陸軍少將」リヤポノフ氏及「アラト」ラハシ平民「カウリール」クラマレニコ署名ス、

本謄本ハ原本ト相違ナシ

官署代理事務官 副署名
外務省
代理事務管理官 点検署名

契約書ノ本謄本ハ「アラト」ラハシ平民「カウリール」クラマレニコニ交付シタルコトヲ「サカレシ島軍務知事」ハ官印ヲ押捺シテ茲ニ之ヲ証明ス

官署代理事務官署名
代理事務管理官署名

千九百零一年八月三十日、第八六八六号、

MT 5.2.17.12

639

MT 5.2.17.12

638



ne puis tenir un, remis autrement
M. de Sennebot et Derlich à envoyer
un bateau à sa voir à Rakshnata
et à retirer le dit. m. m. m. m. m.
s'y trouvent.

Vous les aprez, derniers le
Marquis, de l'arriver de mes
des hauts arrivés de l'arriver.

S. B. Rakshnata

MT 5.8.17.12

640

Légation
Impériale
de France

7612.

至志報

24 avril
N° 6 - 1878

Monsieur de Marguis,

M. M. Semeroff et Derbigh,

consecreraient vous de pêche-
ries dans le sud de l'île de Sakha-
line, l'état de venue de cette
quelques années marines qui se
trouvent dans ces pêcheries,
et particulièrement dans la ba-
cille de Rakhmata, sur la côte
ou. et de cette île, se sont adressés
à moi me, venant d'obtenir pour
ceux là, permission d'y envoyer
dans ce but un bateau à vapeur
japonais qui s'en propose
d'acheter.

Je vous recommande à
votre Excellence de vouloir bien

en Excellence

le Marguis japonais

Ministère des Affaires Françaises

MP 5.8.17.18

641

明治二十九年九月六日
陸軍省

九一五

0022

翻譯課長

ア

4

分、送付は西園寺信孝閣下

露公使 ハリネリツフ

次書館致送少候所、サガレン此南御

に於て露公使海揚揚送者セメノツフ及デレ

ビ一両方、其ノ海揚内及待し、印此露岸

外務省

ラウマカ地云々在り、海揚海揚取方者

御ノ致し加え、此ラウマカ地ヲ御見

込し、日本汽船一艘ヲ右目的ノ為候

に、此送久ノ許可ヲ與へし候様也、

送付は

セメノツフ及デレ、ビ一両方、此ラウマカ

ラウマカ地云々在り、海揚海揚取方者

MT 5.2.17.19 643

MT 5.2.17.12 642

5-0838

0023

類格引取ノ儀ヲ差付サレ候許可トシ
可決ノ旨付申上ルニ付御座候事
之儀

此ノ旨ノ下ニ向テ御座候事ヲ表シ候旨
今九日六日午ノ旨ニ付一日三時申上ル旨

外務省

MT 5.2.17.12 644

5-0838

0024

新

セノフ、フンビ、外十七名、市部権太に於て

換案短債要求、開る件

本年七月一日付テ在、邦債公債、林大臣、キ

文アリ、先、貸、ニ、按、レ、バ、市部権太に於て、深、田、協、借、受

人、力、帝、也、政、府、換、案、短、債、要、求、ス、ル、権、利、ア、リ、ト、シ、テ、提、出

セ、ル、要、求、ヲ、調、査、ス、ル、方、メ、深、田、部、ニ、委、任、ス、ル、但、爾、ア、リ、口、委、任

省、ハ、深、田、部、ノ、全、ク、公、外、先、材、料、ヲ、其、調、査、ノ、基、礎

外務省

ト、お、キ、ホ、リ、ツ、マ、ス、ル、案、件、オ、シ、テ、帝、也、政、府、カ、市、部、権、太、ノ

任、氏、先、露、田、臣、氏、ニ、シ、テ、換、地、域、ノ、環、道、セ、シ、ト、款、ス、ル、者、ノ、方、メ、完

全、ニ、其、款、業、ニ、従、事、ス、且、財、産、権、ヲ、行、使、ス、ル、に、於、テ、支、持、セ、ル、

ハ、昔、昔、ヲ、信、セ、シ、ル、カ、故、ニ、深、田、部、帝、也、政、府、ノ、意、見、ト、シ、テ、換

已、借、受、人、先、露、田、臣、氏、カ、引、續、キ、其、款、業、ニ、従、事、ス、ル、ト、不、可

結、ナ、ル、ニ、至、ラ、シ、メ、テ、シ、ル、ハ、即、チ、前、述、オ、シ、テ、保、障、ノ、権、利、ヲ

侵、害、セ、ラ、レ、タ、ル、モ、シ、テ、隨、テ、之、ノ、方、メ、融、合、シ、テ、換、案、ノ、短、債、ノ、受

MT 5.2.17.12

646

MT 5.2.17.12

645

5-0838

0025

〇(キモト)認(ん)ん(ん)修(り)奉(わ)政(府)に在(在)産(産)部(部)特(特)別(別)無(無)欠(欠)金(金)に
 於(於)テ減(減)額(額)ノ上(上)査(査)定(定)シ(シ)タ(タ)ん(ん)公(公)平(平)ナ(ナ)ん(ん)勘(勘)定(定)シ(シ)テ(テ)承(承)認(認)シ(シ)テ(テ)第(第)一(一)部(部)揮
 太(太)に(に)於(於)テ(テ)十(十)年(年)期(期)及(及)一(一)年(年)期(期)ノ(ノ)露(露)出(出)借(借)受(受)人(人)ノ(ノ)合(合)計(計)全(全)百
 五(五)十(十)萬(萬)三(三)千(千)留(留)ヲ(ヲ)科(科)其(其)セ(セ)ラ(ラ)レ(レ)シ(シ)ト(ト)シ(シ)テ(テ)布(布)告(告)ス(ス)ル(ル)モ(モ)ナ(ナ)リ(リ)ト(ト)云(云)ヒ(ヒ)而(而)シ(シ)テ(テ)
 漁(漁)場(場)借(借)受(受)人(人)ノ(ノ)二(二)種(種)ニ(ニ)分(分)テ(テ)リ(リ)其(其)中(中)一(一)種(種)ハ(ハ)セ(セ)メ(メ)ノ(ノ)フ(フ)レ(レ)テ(テ)ン(ン)ビ(ビ)ー(ー)レ(レ)及(及)ク(ク)
 ラ(ラ)マ(マ)レ(レ)ン(ン)コ(コ)ト(ト)シ(シ)テ(テ)成(成)リ(リ)又(又)長(長)期(期)債(債)借(借)権(権)ヲ(ヲ)有(有)ス(ス)ル(ル)モ(モ)ノ(ノ)ニ(ニ)シ(シ)テ(テ)尚(尚)ホ
 ナ(ナ)ケ(ケ)年(年)間(間)日(日)一(一)条(条)件(件)ク(ク)ル(ル)テ(テ)其(其)借(借)受(受)リ(リ)借(借)還(還)ス(ス)ル(ル)権(権)利(利)ア(ア)ル(ル)モ(モ)ノ(ノ)ト(ト)ス
 外(外)務(務)省(省)
 此(此)種(種)ノ(ノ)借(借)受(受)人(人)ニ(ニ)對(對)シ(シ)テ(テ)要(要)債(債)額(額)百(百)二(二)十(十)萬(萬)留(留)ハ(ハ)正(正)當(當)公(公)平(平)
 ノ(ノ)モ(モ)ト(ト)査(査)定(定)セ(セ)ラ(ラ)レ(レ)ヨ(ヨ)リ(リ)才(才)二(二)種(種)ハ(ハ)十(十)六(六)名(名)ヲ(ヲ)成(成)リ(リ)其(其)借(借)受(受)期(期)限(限)
 ハ(ハ)一(一)年(年)ニ(ニ)過(過)キ(キ)サ(サ)リ(リ)シ(シ)モ(モ)右(右)左(左)自(自)ノ(ノ)適(適)区(区)ノ(ノ)五(五)年(年)間(間)借(借)受(受)ク(ク)ル(ル)ニ(ニ)ト(ト)存
 一(一)日(日)承(承)保(保)ノ(ノ)意(意)ヲ(ヲ)表(表)明(明)シ(シ)ア(ア)リ(リ)タ(タ)ル(ル)モ(モ)ナ(ナ)ル(ル)が(が)學(學)校(校)長(長)ノ(ノ)名(名)義(義)ニ(ニ)於(於)テ(テ)保(保)護(護)及(及)友
 意(意)ト(ト)正(正)式(式)ノ(ノ)形(形)式(式)ヲ(ヲ)備(備)付(付)ス(ス)ル(ル)妨(妨)ケ(ケ)ラ(ラ)レ(レ)シ(シ)モ(モ)ナ(ナ)リ(リ)此(此)種(種)ノ(ノ)借(借)受(受)人(人)カ
 其(其)務(務)業(業)ヲ(ヲ)抛(抛)棄(棄)ス(ス)ル(ル)ハ(ハ)已(已)ム(ム)ヲ(ヲ)得(得)サ(サ)ル(ル)ニ(ニ)至(至)リ(リ)タ(タ)ル(ル)カ(カ)否(否)ヲ(ヲ)認(認)定(定)ス(ス)ル(ル)換
 害(害)保(保)險(險)ハ(ハ)全(全)三(三)十(十)萬(萬)三(三)千(千)留(留)ニ(ニ)シ(シ)テ(テ)是(是)亦(亦)正(正)當(當)ナ(ナ)リ(リ)ト(ト)認(認)定(定)ス(ス)ル(ル)コ(コ)ト(ト)ス(ス)

MT 5.2.17.12

648

MT 5.2.17.12

647

思フニホトツラスレテ亦ハオナ案ニ於テ帝ハ政府カ完全ニ其欲
 業ニ從事シ且財産権ヲ行使スル支持ヲ与ヘシムルハ南滿
 大ノ住民カ其際ハ巨民ニシテ該地域ニ残留スル者
 限ルカ故ニオナ種ノ借受人ハ固リ島ノ住民ニアラズ且該
 地域ニ残留ノ者思フキモト認ムルハ借受人ハ亦オナ案保
 障ノ権利ヲ侵害セザレバモノニアラザルヤ明ナリ當キ其理由ニ
 關シテハ是迄先カ說明シアレバ今更ニ茲ニ之ヲ繁述スルノ
 外 務 省
 要ナレ波等カ向テ十年間口一案件ヲ以テ其借受リ借債
 スル權利カ得ルハ姑ク別問題トシテ日人等ハ長期租借者ナリ
 シコトハ事實ナルヲ以テ是等政府ハ兩不同ニ論争ノ
 種子ヲ始スエトリ好マサルヲ恩惠的ニ追テノ金銀ヲ彼
 等ニ與ヘ以テ該問題ノ解決ヲ欲シタレド波等ハ亦本
 政府ノ提議ニ應テス自己ノ主張ヲ固執スルカ方ニ於テ
 結了ヲ見サルハ歎ル遺憾トスル所ナリ

MT 5.2.17.12

650

MT 5.2.17.12

649



翻テオニ種酒坊借受人ノ要求如何ニ至ラン在テオ
十年保障ノ権利ノ侵害セラルレタムニテオト認ム基理
由ヲ述ベシ

(二) 彼等ノ借受期一十年ニ過キサリシモ各自ノ酒造り五
ヶ年間借受クルトニ一口承諾ノ意ヲ表明シアリタルモノ
ナルガ故筆ノおカ露不官憲ト正式ノ契約ヲ締結スル
ヲ妨ケラレシモノナリト云ヘド彼等ノ借受期一十年ニ過キサリ
外務省

シトハ何年度ノ借受ヲ指シヤ明ナラズ毎年度酒造り降
酒造ハ在巴府田布財産廳文部ヲ酒坊区域表ヲ収メ
手ヲ差布シ而シテ口表ヲ於テ之ヲ捺定シ酒造者若ハ之ニ基キ
出飲酒期間ノ権利ヲ取得スルノ慣例トスルハ口文部
於テハ千九百四、五ノ兩年度ハ沿海州ト里誌江右派ニ限リ
薩吹佐島ニ於ケン酒坊ハ区域表ヲ以テ差布セサリシ外
ラハ何人モ口表ヲ於テ右兩年度間ハ酒造り権利ヲ取得

MT 5.2.17.12

652

MT 5.2.17.12

651



之を以てナキ者ナリ況や五ヶ年ノ借受ケニ對シ一口取
 流ノ意ヲ表明シタリト云フニ至テハ何等ノ根據ナキヲ
 ト認ムナニ久内「ヨリケ」ノ如キ業ニ長期借受クおセシト
 稱セシモノスル其像尙行方ヲ了シタニニ過キサリニ事
 甚証據ハキ九百零五年三月十七日(附)國方對露借款
 初ヨリヨリケニ交付セル証明書(別紙)末段ニ「澳
 業若事(附)同意ニ就キテノ前記受書ニ現今ニ至ル
 ニテ管理所ニ於テ農事並事務官ヨリ受理セストアリ
 其他ノ十五名ニ至リハ在サガレシ農事並事務官ト像尙
 存候スラ了シタニモ「ヨリケ」ノ如キ一歩ノ像リ之
 ヲおセリタルニお池沼ノ書中澳業若事同意ニ就キテノ
 受書ニ管理所ニ受理セストアル以上ハ全ク像尙行方ナリ
 コト明ナリ

外務省

ノ如ク南郡樺太ノ信氏及茂島信氏ニシテ陸地域ニ残



07512

現如：酒造免許の賦課が、その地方に、酒造免許を有する者

外務省

の酒造免許を有する者、酒造免許を有する者の酒造免許を

有する者、酒造免許を有する者の酒造免許を有する者の酒造

免許を有する者の酒造免許を有する者の酒造免許を有する

者の酒造免許を有する者の酒造免許を有する者の酒造免許

を有する者の酒造免許を有する者の酒造免許を有する者の

酒造免許を有する者の酒造免許を有する者の酒造免許を有

する者の酒造免許を有する者の酒造免許を有する者の酒造

免許を有する者の酒造免許を有する者の酒造免許を有する

者の酒造免許を有する者の酒造免許を有する者の酒造免許

外務省

を有する者の酒造免許を有する者の酒造免許を有する者の

酒造免許を有する者の酒造免許を有する者の酒造免許を有

する者の酒造免許を有する者の酒造免許を有する者の酒造

免許を有する者の酒造免許を有する者の酒造免許を有する

者の酒造免許を有する者の酒造免許を有する者の酒造免許

を有する者の酒造免許を有する者の酒造免許を有する者の

酒造免許を有する者の酒造免許を有する者の酒造免許を有

MT 5.2.17.19 654

MT 5.2.17.19

留をト欲る者ニ限ルベシ此ニお地おおフヤノ認可キト
 云フ邊区表ニ依ルニ十六名ノ内ニ官吏アリ浦潮市氏
 アリ罪囚アリ殆ト權太信氏先若ナシ加フニ抄軍占
 欲多時兵曹兵タリニお抄又ニ捕虜トあり先ノ除キ其他
 ハ遊雅ト稱シ預地域ヲ占フ其仁據ハ明治三十八年八月
 七日陸軍省告示第十五号權太島酒業假取告示四條
 ニ據太島在任諸人ニシテ係業不官駐リ酒業
 外務省
 ノ存リ受ケ現ニ酒造場ニ於テ自ラ酒業ヲ営ム者ハ差懸
 軍衛ニ於テ優先ノ権限ヲ有ス旨ヲ告示シタル一人トシテ
 之ヲ取扱シタル者ナカリキ
 (三)カニ種ノ酒造場假受人ニ十六名カ稱タル移る抄害ハ五
 ナ名ニテ留トアレド其基ク所ヲ知ラス右自ノ申立ハ歟ニ其
 事ヲ保せんノ感アリ一足ノ期向ニ於テハお獲言ニ基キ其額
 リホスルニマラセン以上ハ露部特にお委欠官ノ権限查定ハ

MT 5.2.17.12

656

MT 5.2.17.12

655



正當公平ト認ケテ得サレ

要スルニ他方ニ種ノ漁場借受者中損害ヲ被ルル事
以樺太島カ未タ露領時代ノ間ニ屬スルヲ以テ其職業
ヲ抛棄スルノ已ク得サルニ至リテ損害賠償ハ露不
政府其責ニ任スルキモノナリ

外務省

MT 5.2.17.12

657

5-0838

0032

元 法和農氏 現 津南郡市氏	ビリチ
元 セノフ 赤倉南坂ノ庄 馬車店番頭	ホリソフ
法和弦氏(女) 不詳	ヅエリソフ
法和弦氏 不詳	コンスタンチノフ
法和農氏	ラリオノフ
法和弦氏 不詳	ニコネニコ
法和農氏	外務省
元 官史	ノウイツキー
元 タリ、カシ 燈台監視長	ポルトネフ
法和弦氏 不詳	ボルゴウスキー
法和農氏	ポウツリン
平民	オウエリエフ
元 コルサコフ 郵便電信局長	セラブレニツキー
法和弦氏(女) 不詳	スムウロフ

MT 5.2.17.12'

659

MT 5.2.17.12

658

5-0838

0033

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

参考

騰本談

六五二号

證明書

サカレ島漁業農

フリサン、プラトノウキ、ヒリチ

一古者千九百三年迄(千九百三年ヲモ含ム)毎年入札

ニ依ラズシテ江州國有財産管理所ヨリ「サカレ

島西海岸漁場即チ漁場目録ニ記載セルニ

九號、二一〇號、二二一號、二二三號、二二四號、二二五號、

二二〇號、二二二號、二二三號、二二四號、漁場

ヲ借用セリ、其他入札ニヨリ千九百三年度ニ二二四号

イ、二二四号口漁場ヲ得タリ「ヒリチ」ノ借用漁場ニシテ

其借用保持ニ對スル分ノ未納額ハナシ

外務省

二「サカレ」島漁場ヲ長期貸貸ニ移ス場合ニ江州

部江州國有財産管理所ハ「サカレ」島農事監

督官「フオニ」ヲ以テ長期貸貸問題ニ就キ最高

官署ノ最終ノ決定ニ至ル迄ニ漁業者等ト豫備商

議ニ入り且ツ五年ノ期限ヲ以テ漁場ヲ借用スルニ付

管理所制定ノ税金及管理所ノ起案セル左記條

件ニ同意ノ受書ヲ漁業者各自ヨリ取ルコトヲ委任

セリ

條件

一、地所境界、借用志望者ト協議ノ上且該志望

者ノ費用ニテ境界標ニ依リ確定セラルモノトス

二、借用人、其得タル漁場ニ營業上各種ノ建築物

ヲ設置シ、並ニ營業設備及漁場整理ノ為ノ工作

再

農事監督官
江州農事監督官
兼任ス
修不

MT 5.2.17.12

662

MT 5.2.17.12

661

5-0838

0035

物其他備者ナリ設備ヲナスヲ得但之ガ為ノ現
存スル道路ヲ廢リ又官ノ要求ニ依ル場合ニ新造
路ノ敷設ヲ妨グルヲ得ズ

三、借用人ノ營業ノ際該黑裁江州領海内水産
業ノ為ニ制定セラレタル又制定セラルル凡テノ規則
ヲ遵守シ該規則ニ定メラルル徴収金ヲ納ム可シ

四、借用人ノ營業ニ使用スル労働者總員中借用ノ
第初年ニ六割第二年ニ八割五分第三年ニ
二割第四年ニ二割五分第五年ニ三割ニ相成ル
露國国民労働者ヲ使役スルヲ要ス

前項ニ違反シタル時ハ初犯者ハ不是露國国民労働
者一人ニ付百留宛者ト年間ニ再犯シタル者ハ其ノ二倍
第三犯者ハ初犯者ノ三倍(以下之ニ準ス)ノ割合ニテ科
料ニ處セラル可シ

外務省

料ニ處セラル可シ
營業地ノ事務管理ハ常ニ露國国民ノ年ニ依リ
為サルヲ要ス

五、借用漁場ヲ他人ニ讓與スルハ該黑裁江州國有
財産管理所ノ同意ヲ經ルニアラサレバ許可セラルコトナ
シ

本則ニ違反シタルトキハ漁場ヲ及收シ且ツ之ヨリ生スル官
ノ損失金ヲ納付セシムルコトアルベシ

六、借用人ノ營業上必要ナル使用木材ニ對シテハ現行
定價表ニヨリ税金ヲ納付スベシ但外國ヨリ輸入シタル木
材ヲ除ク木材伐採ニ就キテハ規定ノ許可書ヲ受
クルヲ要ス

七、漢業者ガ其借用漁場ニ設備セル各種建築物



及營業工作物存在、故、以、該、填、業者、填、場、ノ、更
 改、借、用、ノ、就、中、何、カ、係、員、推、シ、出、ス、ル、コ、ト、ト、シ、
 借、用、期、限、後、又、借、用、人、填、場、ヲ、借、用、セ、サ、ル、コ、ト、ト、シ、
 借、用、人、ノ、次、ノ、填、場、ヲ、修、築、ス、ル、コ、ト、ト、シ、其、建、築、物、及、營、業
 工、作、物、ヲ、除、去、シ、若、シ、ラ、バ、お、者、ノ、償、金、ヲ、之、リ、其、所
 繼、者、ノ、讓、與、ス、ベ、シ、其、償、金、額、ハ、相、互、協、定、ノ、上、定、ム、
 之、若、シ、協、定、不、調、ノ、時、ハ、國、有、財、産、官、理、所、ノ、新、旧
 借、用、人、ノ、参、加、ヲ、許、シ、評、價、シ、修、リ、之、ヲ、定、ム、其、評、價
 ハ、最、終、ノ、決、定、價、格、ト、見、做、ス、可、シ、
 官、ノ、建、築、物、及、營、業、工、作、物、ヲ、引、受、ク、ル、ノ、義、務、ヲ、シ、
 繼、者、ノ、相、互、ノ、協、定、又、ハ、官、理、所、ノ、評、價、シ、修、リ、之、ヲ、引、受
 ケ、サ、ル、可、カ、ラ、ズ、契、約、期、限、後、ニ、至、リ、所、期、填、場、借、用、人、
 如、主、者、十、年、中、借、用、人、ノ、六、ヶ、月、以、内、ニ、其、填、場、ノ、建、築
 物、及、營、業、工、作、物、ヲ、除、去、セ、サ、ル、ベ、カ、ラ、ズ、右、期、限、後、ハ、建
 築、物、及、營、業、工、作、物、ハ、無、償、ニ、テ、官、ノ、所、有、ニ、歸、ス、
 八、借、用、人、ノ、全、借、用、期、間、中、營、業、監、察、ノ、為、メ、借、用、人
 所、有、又、ハ、雇、ノ、船、舶、及、小、舟、ノ、航、路、ニ、當、ル、地、方、ハ、赴
 ク、官、吏、ニ、該、船、舶、ニ、係、リ、無、償、乗、船、ヲ、得、セ、シ、
 九、借、用、人、ノ、填、場、借、用、料、ヲ、半、々、年、分、先、國、有、財、産
 官、理、所、地、方、收、税、官、吏、ノ、監、庫、又、ハ、倉、貯、与、ハ、
 前、納、ス、可、シ、公、課、ヲ、急、納、シ、タ、ム、ト、キ、ハ、下、月、ニ、付、其、急
 納、金、額、ノ、百、分、一、ノ、料、料、又、ハ、四、割、金、ヲ、徴、收、セ、シ、
 引、キ、統、キ、二、回、公、課、ヲ、納、メ、サ、ル、ト、キ、ハ、填、場、ヲ、没、收、シ、且
 ツ、之、リ、生、ス、ル、官、ノ、損、害、金、ヲ、賠、償、セ、シ、
 一〇、契、約、ヲ、締、結、ス、ル、要、ス、ル、費、用、ハ、借、用、人、ノ、負、担、ス、ル

外務省

MT 5.2.17.12

666

MT 5.2.17.12

665

5-0838



へし契約条件ノ履行ノ保証金トシテ借用人ノ契約
 締結ノ際半年分ノ借用料金額ヲ納付シ得
 保証金ハ現金及有價証券外ノ不動産及現
 行法令ニ依ル保証物ヲ採納ス
 二本契約ニ基キ借用人ニ徴収金ヲ課シタル場合
 三其納付金ハ保証金又ハ保證金ニ代ルヤキ保証
 物ヲ以テ之ニ充ツ猶不足ニシタルトキハ借用人ノ財産
 ヲ差押シ得シ徴収金ニ充テ置ル度置ハ裁判所ノ判
 決ニ依ラズ行政處分ヲ以テ行フ可シ本契約ニ依リ
 澳場ノ没収ヲ生ズ官ノ損害金モ亦同
 三現今ノ借用人等カ上記条件及價格ニ同意
 ノ為メ借料用セザル澳場ハ現行規定ニ據リ入札
 又ハ競賣ニ附セザルベシ

外務省

「ヨリ」ニ長期借區トシテ下付スル豫定セザル
 前記澳場ノ一年ノ借用料ハ次ノ如ク之ヲ定ム

全	二〇九號	壹千留
全	二一〇號	壹千留
左	二一一號	壹千貳百留
左	二一二號	壹千留
左	二一三號	壹千留
左	二一四號	貳千留
左	二一五號	壹千貳百留
左	二二〇號	八百五拾留
左	二二一號	貳千留
左	二二二號	八百留
左	二二三號	六百五拾留
全	二二四號	八百留



賠償行為
過キヤノ理
由存アリ
録不

漢業者等同意ニ就テハノ前記受書ハ現今ニ至
ルマデ管理所ニ於テ農務監督官ヨリ受理セズ

國有財産管理所總裁「ウエデンスキ」記名

事務官 記名不明

印

本書ハビリチニ支付ス

ハバラスク市農務國有財産管理所江州國有財

産管理所第二部漢業部

千九百零六年二月十七日

未行ニ該贖本ハ原本ト一言一句同ニミテ且原

本ニ訂正删除ノ跡ナキヲ證明セ「ウラジウオストク

地方裁判所公證人ノ署名捺印アリ

外務省

MT 5.2.17.12

669

本証明書ハハバロフスク國有財産管理所ノ發
 給シタルモノニシテ右ノ據レバ長期借區ノ許可ヲ得ム
 トスルモノハ高等官廳ノ最終裁定前迄ツツカレニ
 島田農事監督官フオシツケント豫備高議ヲ
 遂クマキモノニシテビリケレガ高等官廳ノ裁定ヲ得
 ガリシハ本証明書ホ文據業者等同意ノ妻書ハ農
 事監督官ヨリ接受セバオクトアルヲ以テ知ルベシト
 リケレハ別紙フリツケン電信ヲ以テ本人ノ留テ同意ヲ
 表シタルニトテ証明セドトスルモ該電信ハ其據ル所
 ヲ示サレカ故ニ到底正確ナルモノト認ムルヲ得ズ改ニ
 ヤフリツケンハ學ニ國前者支部ヨリ豫備高議ヲ
 為ス可キ権限ヲ與ヘラレタルモノニシテ假ニ一歩ヲ譲リ
 フリツケンニ於テ本人ノ同意シタルヲ証明シ得マキ確實
 ナル材料アリトスルモ尚ホビリケレハ長期借區ニ豫
 備高議ヲ為シタリト認フコトヨキズシテ兩國以テ付カ
 ビリケレニ對シ長期借區ヲ許可シタルモノト認ム可カラ
 かん中明ナリ。

外務省

MT 5.2.17.12

671

MT 5.2.17.12

670

5-0838

0040

明治三十九年九月廿二日 起草

九ノ様密

大臣

取調課主任

西ノ洋

送第九六號

通商局

左不并方公使宛

西國古外務大臣

クラシム漁業契約書送付付回各件

以主翰及船上矣陳有長也中民クラシムに臣方是表

之必官定下云結ヒル事約日本徳領又信送付は

外務省

目氏カ決契は重と依リ私ハシル漁業主権ハ何

ヨリスレ條約ヲ十條トシテ依リ確信セシムル事

付主東ラシム中誠

事非東ラシム類ハ去月廿五日附本大

迫主主翰及七月五日附林外務大臣ノ主翰ヲ以テ申送

事非通漁業免許人子ノ様大臣改署提外ノ同官

官定於三月十日其効力ヲ定官有スル事有二三矣事

本大臣於此ハ事件解決ヲ遲延スルノ虞ナカシカ

MT 5.2.17.12

673

MT 5.2.17.12

672

5-0838

0041

侍従等主類ノヲ陸軍在坐ニ移席ニ有候及善ク
於十分具其力ラシキ事由查スルニ侍従ラ候ハ
政事及右侍等之金等ハ本大臣ハ函下ト向テ重
重ト申上ル事也

外務省

MT 5.2.17.12 674

5-0838

0042

Des ma très haute considération.

Signé: K. E.

MT 5.2.17.12

675

5-0838

0043

acquis par ce contrat, ~~et ce qui est~~

^{li est} assuré par les dispositions de l'article

II du Traité de Portsmouth.

Comme il vous en avait été ^{communiqué} ~~informé~~

par ma lettre du 31 mai dernier ^{et par} ~~aussi~~

celle de ~~son Excellence Monsieur~~ ^{De la Vicomte}

Hayashi datée du 5 juillet, ~~dernier~~, le

document susmentionné ~~devait être présenté~~

par les concessionnaires de pêcheries ^{devant} ~~à~~
s'adresser directement à

l'Administration civile de ~~St~~ Hakodate,

afin que leurs ^{droits} ~~droits~~ puissent être examinés
~~et s'ils sont examinés en détail sur sa~~

MT 5.2.17.12 677

par elle. ~~validité.~~ Invoiqu'il en soit, pour ~~me~~

~~pas donner lieu à crainte de protestation~~

éviter tout retard de la solution ~~générale de la résolution de l'affaire,~~

je ^{me suis efforcé} ~~viens~~ de remettre les dits documents

au Ministre de la Guerre ^{en la priant} ~~de~~

de faire examiner ^{soigneusement} ~~les~~
~~mêmes afin qu'il soit possible à l'autorité~~

par les autorités compétentes la ^{validité} ~~validité~~ des
contrats en question.

documents ~~et~~
~~maintenir la validité.~~

En portant ce qui précède à ^{votre} ~~la~~ con-

naissance, je saisis ^{cette} ~~cette~~ occasion pour vous

remercier, Monsieur le Ministre, l'assurance

MT 5.2.17.12 676

no 96

Traduction

Asateij 譯長

A

Monsieur le Ministre,

j'ai l'honneur d'acuser réception
 à Votre Excellence de ^{la} lettre en date
 du 6 courant par laquelle, en me
 transmettant ~~une~~ la traduction en langue
 japonaise du contrat passé entre les
 autorités russes et M. Kramarentko,
 sujet russe, ~~elle a~~ Elle a bien voulu
 m'exposer que, le droit d'exploit^{er}
 des pêcheries que M. Kramarentko a

Son Excellence
 Monsieur G. Bakhméteff,
 Envoyé

MT 5.2.17.18

678

5-0838

0045

明治三十九年九月十七日

明治三十九年九月十七日

明治三十九年九月十七日

主任

機密送第100號

通商局

陸軍大臣宛

西園寺公望様

「セモノフ及「テビ」海軍類柄及び汽船汽機並に...

機密 要再回

許可番号は目下から使用し申す件

横太の島に於ける海軍類柄及び汽船汽機並に...

海軍類柄及び汽船汽機並に...

申請致す未定は及海軍類柄...

MT 5.2.17.12 680

MT 5.2.17.12 679

5-0838

0046

文書課長

明治三十九年九月十五日 起草
同日 十月五日 通商局

明治三十九年九月十五日 送達

明治三十九年九月十二日 抄

別紙

通商局

機密送達 夕ノ報

陸軍大臣宛

西園寺外務大臣

樺太及び千島に於ける國家保護業免許人等ノ契約書民政長官片部

下相成矣事案之變に在本邦政府公使ヨリ去月十二日附之別

紙譯又ノ用申上矣、報及申由知矣也

外務省

別紙八月十二日付政府使未翰、寫下り向未翰添附指合書

寫下り向未翰添附指合書

MT 5.2.17.12 682

MT 5.2.17.12 681

5-0838

0047

取寄

樺太支那人舊免許漁場を分る件其後、経過

今般善の漁場中、其れ相より珍田次友に宛てられ主幹中

樺太漁場を分るの戻スル件^{ヤリ}未定タルヤノ問合アリタル趣ニテ

友ヨリ意見見直し等と踏取一部ヲ取調候ニ従求セラルル外

事務次友ハ同主再候ノ上ニテ於西國等首相部ニ指し首

相より陸軍省有るに於ルに後儀ノ結果を多々伺合アルに於陸軍

大臣ニ交渉才取斗ハと云々首相ニ上申スル旨ニ由リ

外務省

右九月十五日午後五時長官の傳言に依り此の如き

ムル下と云々

MT 5.2.17.12 684

MT 5.2.17.12 683

5-0838

0048

文書課長

明治三十九年九月十三日 陸軍省

明治三十九年九月十五日 起草

東地

主任

あまのり

陸軍大臣宛 機密送第133号 西園寺公使宛

大正五年九月十五日 西園寺公使宛

互に邦交の急回復を期す件

大正五年九月十五日 西園寺公使宛

外務省

十條ノ規定ニ依リ確信セシムルモノナルハ其ノ困窮ニ對シテ

日本徳領ノ之ニ依リ附申出スル者其ノ種類ハ當業者有リ之ヲ擇

大臣取置者ニ提カセシムルモノトシテ其ノ中ニ有リ之ニ對シテ

キルモノハ其ノ種類ハ其ノ種類ニ依リ之ヲ擇ビ之ニ對シテ

其ノ種類ハ其ノ種類ニ依リ之ヲ擇ビ之ニ對シテ

其ノ種類ハ其ノ種類ニ依リ之ヲ擇ビ之ニ對シテ

其ノ種類ハ其ノ種類ニ依リ之ヲ擇ビ之ニ對シテ

大正五年

機密

機密

MT 5.2.17.12 686 MT 5.2.17.12 685

5-0838

0049

本及長及短等也

外務省附家後未綴印附下

外務省

MP 5.2.17.12

687

5-0838

0050

九月二十七日新聞

THE SAGHALIEN FISHING LEASES.

It seems probable that the question of the Saghalien fishing leases may ultimately be submitted to the Hague Tribunal. We recorded in a recent issue the fact that Mr. Kumagaya, Chief of the Civil Administration of Saghalien, had definitely refused to recognise these leases and that the Russian Government had entered a protest. The case should be already familiar to our readers. In the 10th article of the Portsmouth Treaty it is provided, with regard to territory ceded to Japan, that while she "shall have full liberty to withdraw the right of residence in, or to deport from, such territory any inhabitants who labour under political or administrative disability," she nevertheless "engages that the proprietary rights of such inhabitants shall be fully respected." Now it happened that Russia had granted to some of her people long-term leases of certain fishing grounds in the ceded territorial waters, and the question at once arose, should such leases be classed among the "proprietary rights" mentioned in the Treaty. Japanese jurists and jurisconsults decided in the negative. Their view was that a fishing privilege granted temporarily by the lord of the soil could not be held to outlive his lordship, and could not therefore be regarded as a proprietary right belonging to individuals, especially after such individuals had ceased to be inhabitants of the territory. There was some disposition among Japanese diplomatists to cede the point within limitations, but this idea does not appear to have been maintained, and finally the chief of the Saghalien Civil Government was instructed to withhold recognition of the leases, which, it may be mentioned, concern 35 places and affect more than a moiety of the fishing grounds in the ceded territory. Russia naturally objects to this view, and the question, being obviously unsolvable by diplomatic discussion, will probably find its way to a court of arbitration.

MT 5.2.17.19

688

5-0838

0051

陸軍省 十月十六日接電

陸軍省

石切栄 牛島 等

陸軍省 密送第一二八八號

あすし

陸軍省 第一七六四〇號

密送第一二八八號の件は、九月十五日機
密送第一二八八號の件は、九月十五日機
文及海軍省の書翰文ヲ送ル照會
利ノ恐るる間ニハ、是等ノ書翰ニ對シテ、
意見中ニ送付スルハ、本邦ニ其決定ヲ待テ、
スルニ至ル由ト存ス。此旨、回信中ニ送付ス。

陸軍大臣 寺内正毅



外務大臣 青木宣親

陸軍

MT 5.2.17.12 689

5-0838

0052

(3)

2/10/06.

try to approach your friend Mr. Chinda or the Minister of Foreign Affairs with the idea of a compromise. You know better than I do the disorganized state of Russia and consequently how helpless your officials are to properly enforce your rights, and I advise you strongly to come down here and again prefer your claims thro' the Foreign Office. If you decide on doing as I advise I will help you in every way, and I feel sure that notwithstanding the estrangement you have caused ^{by} what the Japanese consider your harsh and unreasonable demands, I can still obtain for you a patient and a friendly consideration of your case.

The amount of claims you have named, I must frankly tell you, are looked upon as entirely beyond reason, and unless you are prepared to very considerably modify your ideas it is utterly useless to approach the Minister of Foreign Affairs. If, however, the sum you claim is moderate and reasonable and is considered as such by the Japanese Authorities, come down here, and I will use my influence in again bringing you and Mr. Chinda together. This I am sure I can do.

Another reason why I think you ought to come here is that a very clever and experienced attache has joined the Russian Legation a Mr. Gregory Willonken who has been nearly 12 years in England and 2 in Washington besides having been one of the members of the peace negotiation party at Portsmouth. Mr. Willonken brings a letter of introduction to me as you will see by enclosed copy and I consider him one of the cleverest men I have ever met. I am sure

MT 5.2.17.12

691

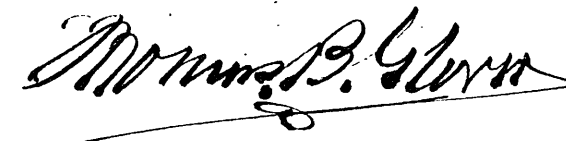
(4)

2/10/06.

it would be wise of you to see as soon as possible.

With kind regards to you all,

Yours very sincerely,



MT 5.2.17.12

690

5-0838

0053

duplicate

2nd. October, 1906.

My dear Denbigh,

I was terribly sorry to have missed you when you were good enough to call just before leaving for Hakodate. I had received an unexpected summons to go to Yokohama that day.

Many thanks for the cheque for ¥ 764.58 in payment for the whisky which I trust you received safely and that you found the flavour and strength to your liking. By this time I hope you have Miss Lisha and John with you to cheer you up and that they are both well after their journey across Siberia.

I am kept continually reminded of you and your Sagalien Claims and troubles by paragraphs from time to time in the News Papers. In one paper I see that the matter will probably be referred to the Hague and settled by arbitration. I am awfully sorry that the question should have come to this dead lock. I am still of opinion that if you are willing to accept a reasonable sum the matter can be compromised.

The harsh and dictatorial terms embodied in your ultimatum to the Sagalien Authorities very much offended your friends in the Foreign Office here, and in a measure ostranged the promised help of Mr. Chinda. I told you that I had explained to Mr. Chinda that you were angry at the treatment and conduct of the subordinate officials in Sagalien and that you wrote whilst under that feeling, and I mentioned that you had always expressed to me how you appreciated the

MT 5.2.17.12

693

(2)

12/10/06.

kindness and consideration shown you by the members of the F. O. with whom you had had an opportunity of conferring, still Mr. Chinda condemned the terms of your official despatch as being harsh and uncalled for.

In your note of the 13th August you sent me a translation of Mr. Mr. Kumagai's reply to your letter. I believe that this document is couched in the same spirit, and in fact almost in the same words as a reply from the Russian Government to the Japanese when claims were made by Japanese who were situated somewhat similarly to Seminoff, Denbigh & Co., when Sagalien was ceded by Japan to Russia.

The treaty concluded at Portsmouth stipulated that the "private property" of Russians should be respected and doubtless you have claims on the Sagalien Authorities, but whether this provision can be construed into meaning that long leases for which no pecuniary value had been paid must be continued, I am not sufficiently well up in the wording of the treaty or in the d---d technicalities of law which can be adduced on questions like yours, to give an opinion. What I do know and feel is this that for a man and father at your age it would be a far better legacy for you to leave to your children a sum of money than an arbitration case subject to the Hague decision.

Neither you nor I are young men and we are not going to live for another hundred years, and I would strongly advise you to read over the concluding words of your letter, viz:—"assuring you that notwithstanding what has passed we are prepared to meet you in every possible way compatible with due regard to our interests", and

MT 5.2.17.12

692

5-0838

0054

RUSSO-CHINESE BANK.
HAKODATE AGENCY.
SEMENOFF & Co.
TELEGRAPHIC ADDRESS:
"SEMENOFF."

Hakodate, 5th October 1906

My Dear Glover,

Thanks for your letter of the 2nd. Lisa and the two boys are coming in the next Empress due on the 14th. They did not care to cross the Pacific in the "Tartar" so concluded to spend a couple of weeks in visiting places of interest in Canada. The Atlantic liners were all full up so that Lisa had to engage the Chief Stewards cabin and the boys took the chief stewards on the "Empress of Britain". It is very good of you to take so much interest in the Sagalien affair, it has dragged on for such a length of time, that I do not lose much sleep over it, and can do nothing but await developments - I am only sorry that our having had so much trouble about it, has probably been the cause of all the recent loss of life and property in Kamtschatka which will do neither us or the Japanese side of the question any good.

I am sorry that I have offended any of the Foreign office people by my letter to Mr. Kumagaye, that certainly was never my intention, and you know perfectly well, that I could not think of doing so, as I have always told you how well they have always treated me - and that in my opinion had the Foreign office alone had to do with the matter it would have been settled long ago - It is just as well that Mr. Wilensin is appointed to Tokyo as he will be able to tell us something of the meaning of the tenth article of the treaty on which our claims rest - as I understand he was at Portsmouth, and will probably know all about it.

MT 5.2.17.12

695

RUSSO-CHINESE BANK.
HAKODATE AGENCY.
SEMENOFF & Co.
TELEGRAPHIC ADDRESS:
"SEMENOFF."

Hakodate, _____ 190

I shall be down to meet my youngsters, when I shall be pleased to meet Mr. Leinda and talk the matter over with him, all I want is a fair & just compensation, I place a very high value on your advice and shall therefore see you before going elsewhere if you will allow me to do so; my intention is to leave here on Tuesday next so I will call at your office on Thursday or Friday if either of these days will suit your convenience.

I suppose you know that the stations are let for next year; the Japanese must have some way of getting much more than I could out of them or they could not pay such prices, two stations realised at auction \$91,400, some twenty stations sold for 2,400,000. I would not give much for these places 7 or 8 years hence as if they take fish enough to make a business at these rates, they will soon destroy the fisheries - I have not got the salmon bacus yet but expect them shortly - I have not tried the whisky yet as we want to finish what we have on tap before opening the new stock, with best wishes

Yours sincerely
Geo P. Winbigh

MT 5.2.17.12

694

Per _____
No. 1, YAESUCHO, ITCHOME,
KOJIMACHI-KU.
CABLE ADDRESS: IWASAKI
TELEPHONE NO. HONKYOKU 2
all letters to be addressed
MITSU BISHI CO.
HEAD OFFICE:
Mitsu Bishi Goshi Kaisha.
(MITSU BISHI Co.)

Tokyo, 6 October 1906
Dear Mr. Honda

I have just received
the enclosed letter from Mr.
Denbigh in answer to mine of 2nd,
a copy of which I also send
you so that you may understand
what has passed between this
gentleman and me

Yours very faithfully
Rosa B. Glavin

MT 5.2.17.13 696

5-0838

0056

大正
陸軍

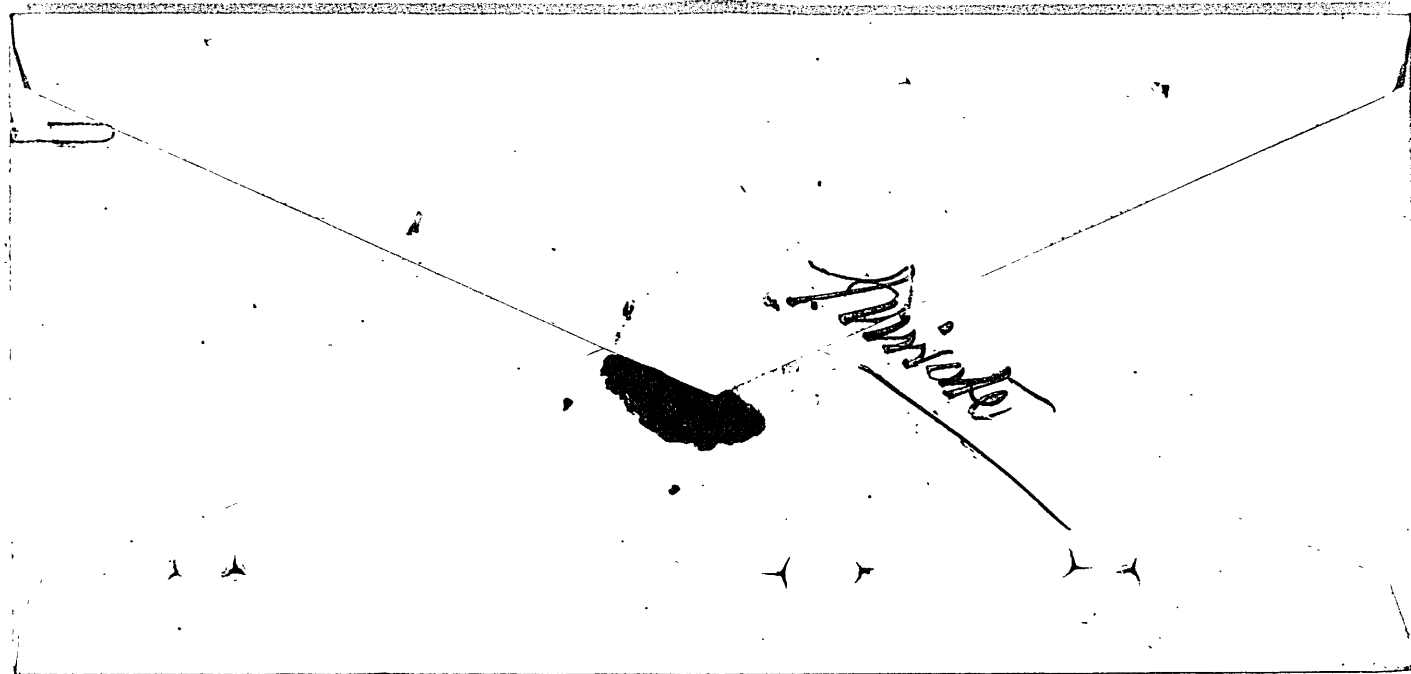
S. C. M. S. Co.
Foreign Office

外務省
陸軍部
局長

MINISTRY OF WAR
HEAD OFFICE TOKYO

5-0838

0057



5-0838

0058

唐
書
東
ト
ニ
テ
存
ス
ニ

The Imperial Government ^{are} disposed to deal with the several fishing claims of Russian subjects in Southern Saghalien in the same liberal and conciliatory ^a spirit in which the Imperial Russian Government are considering the proposals of Japan under Article XI of the Treaty of Portsmouth.

There has, no doubt, been some delay in the adjustment of the question, but for that delay the Imperial Government are not responsible. At the time the claims were first brought to their attention, they were wholly ignorant of the terms and conditions of the grants upon which those claims were based. They did not believe ^{eZ} that they could, in reason, be expected to pass blindly upon the demands, and they, consequently, asked that the claimants be required to deposit with the Japanese Authorities in Saghalien, proof of the existence of their concessions in order that the concessional claims might in regular course be duly examined and considered.

Messrs Semenoff and Denbigh have alone complied with that request. ~~Messrs~~ Kramarenko has communicated to the Foreign Office in Tokio, through the Russian Legation, a Japanese translation of his concession and the Foreign office has taken the necessary steps to have the document forwarded to the Southern Saghalien Authorities for ~~an~~ investigation.

MT 5.2.17.12

698

The Japanese Authorities in Saghalien have decided that the concession in favor of Semenoff and Denbigh is not protected by the Treaty of Portsmouth and that it is consequently null and without effect. The stipulation in the Treaty of Portsmouth upon which the claimants relied, was taken from an Article of the Russo-Japanese Convention of 1875. It was no doubt owing to that fact that the Authorities in question felt justified in adhering strictly to the words of the Treaty.

The Imperial Government are prepared, if so desired, to review at once, the decision of their Saghalien Authorities in the matter of the claim of Semenoff and Denbigh. *for the reason already given* They are predisposed in re-examining the case, to take into full account all equitable considerations. But manifestly unless they are made fully acquainted with the particulars of all the concessional fishing claims in question, before being called upon to pass finally upon a single claim, they will be compelled, for their own protection, to exercise a greater degree of reserve and to adhere more closely to their *legal right* strict ~~letter of the Treaty~~, than would otherwise be necessary, *if all claims were examined together.*

Accordingly the Imperial Government believe that it would be to the advantage of all the claimants, if those who have not done so should submit full particulars of their claims to the Japanese Authorities in Saghalien, before the Imperial Government are called upon to pronounce a final decision in the Semenoff and Denbigh case.

MT 5.2.17.12

697

大臣 陸奥 九七九

25 丙

露都茂 三九、九、二四、後、二五
本省著 三九、九、二五、前、九、五

持本増坊

大臣 本野公使

第一三七号

九月十九日往電、露國外務大臣ニ
面會自擲同大臣ハ樺太南部ニ於ケ
ル露國人ノ漁業権ニ関シ露國政府
ノ見地ヲ説明シタル覺書ヲ本官ニ手
交シテ此問題ニ関スル本官ノ斡旋ヲ
需メタリ本官以テ對シ本問題ニ関シ

MT 5.2.17.19

703

テハ未ダ我政府ヨリ詳細ノ報告ヲ得
ザルニ付キ意見ヲ表示スルコト能ハ
ズト雖モ覺書ハ拜見致スベシト答
ヘ置キタリ右覺書、寫ハ至急郵
便ヲ以テ閣下ニ送り置キタルガ要スル
ニ南樺太ニ於ケル露國人ノ漁業権
ヲ第一、一年限リ、モノト、第二、一九〇
年迄既得權ヲ有シ其満期後ハ
優先權ヲ有スルモノト、ニ種ニ別チ
第一ニ関シテハ南樺太讓渡以前

MT 5.2.17.19

702

露國政府が日本臣民ニ對シテ漁業
繼續ヲ許シタルニ鑑ミ今日日本政府
ニ於テモ同様該權利ノ行進ヲ許サ
レシコトヲ望ムノ理由アリト云ヒ第ニ
關シテハ媾和條約ノ明文ニ依ル既得
權ノコトヲ(留?)保セラレムモノナレバ彼等が
露國政府ニ對シ有シタル權利ハ今日
其儘日本政府ニ對シテ有スルモノナリ
トノ趣意ニテ客年九月五日以前權利
ノ申告ヲナサザリシトノ理由ヲ以テ之ヲ
(E)

MT 5.2.17.18 701

拒ムノ不當ナルコトヲ詳述シタルモノナリ
本官熟々考フルニ本問題満足ニ解
決セラレシコトハ露國外務省ノ甚々重
キヲ置ク所ニシテ此解決如何ニ依リ
目下談判中ナル漁業協約ノ成行ニモ
影響アリ及ボスヤキ模様ナキニ非ズ就
テハ本問題ニ關スル我政府ノ決意如
何ニ依リテハ之ヲ漁業協約談判ノ概
引ニ利用スルコトヲ得バシト信スルニ付キ
本問題ハ決極如何ニ而決定相成ル
(四)

MT 5.2.17.18 700

下キ御見込ミナルヤ可成速カニ本官ノ
心得追御内報アラシコトヲ請フ。

(2)

MT 6.2.17.12

699

5-0838

0062

陸軍省 密發第二七九號

齋取 野木

大臣

明治三十一年九月廿七日

陸軍次官 石本新六

通商局

次官

外務次官 臨時代理

火急

第1945號

陸軍省

セシオノ外三カ所が陸軍省に政府ノ
本朝免海峽の依り経管しよりレ
有下 橋本海峽ノ本朝意見ニ答
陸軍省意見(カニ子)ニ然り様
右代官ノ同意見(カニ子)ニ回
送、也

MT 5.2.17.19

705

MT 5.2.17.19

704

5-0838

0063

第一号

七ノオノフ「ク」ク「マ」レ「コ」及「ビ」リ「チ」ノ「漢」
 業「梅」ノ「對」ス「ル」別「紙」意「見」書「ノ」要「旨」ハ「或」ハ「地」域
 「對」ス「ル」主「權」ノ「移」動「ア」ノ「タ」レ「ト」テ「其」ノ「地」
 域「内」ニ「於」テ「ル」私「權」ハ「何」等「ノ」影「響」ヲ「受」ク「ル」モ
 ノ「非」サ「ル」コ「ト」國「際」法「上」ノ「原」則「ト」シ「テ」萬「國」
 ノ「承」認「ス」ル「所」ナ「ル」故「ニ」本「件」ニ「關」シ「テ」露
 國「免」許「人」等「ノ」權「利」カ「講」和「條」約「ノ」規「定」
 「ニ」依「リ」保「護」セ「ラ」レ「ル」キ「モ」ノ「非」サ「ル」コ「ト」テ「論」
 證「セ」シ「カ」為「シ」テ「十」分「ノ」論「據」ヲ「具」備「ス」ル「テ」
 必「要」ト「ス」然「レ」ニ「消」極「說」ノ「論」據「ハ」ト「シ「テ」
 陸軍
 明「確」ナ「ル」モ「ノ」ナ「リ」何「レ」モ「牽」強「附」會「ノ」說「タ」ル「テ」
 免「シ」カ「ル」故「ニ」前「記」國「際」法「上」一「般」ノ「原」則「ニ」依
 リ「本」件「露」國「漢」業「免」許「人」等「ノ」權「利」ハ「之」ヲ
 尊「重」セ「ザ」ル「カ」ラ「ズ」更「ニ」一「步」ヲ「進」メ「テ」條「約」締
 結「時」ノ「兩」國「全」權「委」員「ノ」意「思」ニ「徴」ス「ル」モ「該」
 漢「業」權「ヲ」認「ム」キ「コ「ト」明」白「ナ」ル「カ」故「ニ」今「於」テ「
 之」ヲ「爭」フ「ノ」餘「地」ナ「キ「モ」ト「シ」我「國」ニ「於」テ「一」刻「モ」
 早「ク」該「權」利「ヲ」消「滅」セ「シ」メ「ト」セ「ル」確「據」場「買」
 收「ノ」一「途」ア「ル」コ「ト」シ「テ」萬「一」買「收」シ「ツ」キ「双」方「妥
 協」ニ「至」ラ「ル」テ「キ「ハ」其「ノ」權「利」ヲ「確」認「ス」ル「外」十
 二「ト」テ「存」在「抑」該「海」漢「業」ハ「國」家「ノ」獨「占」ニ

MT 5.2.17.12

707

MT 5.2.17.12

706

5-0838

0064

屬し條約上特別ノ規定アリトアサシハ外國人
 之ヲ許與セザル權利ナカ故、一般私權ノ例
 リ以テ之ヲ類推スルコト能ハサル一言ヲ俟タ
 ス。是レ本意見書ノ如ク一般私權ト干スル
 前記原則ヲ本件ニ適用シ露國漢業免許
 人ノ權利ハ講和條約第十條ニ包含セラル
 ルモノトシテ之ヲ確認セシトスルハ條約解釋
 ノ本旨ニ背反スルモノトシテ之ヲ以テ消極說
 多ク否定スル足ラズ其ノ他消極說ノ論據ニ對
 スル反駁ノ何レモ薄弱ナルコトハ別紙權友
 民政長官ノ意見書中ニ詳論スル所ト依
 陸軍

明白ナリ

右ノ如ク露國免許人ノ權利ハ之ヲ承認スル
 トスルニ該免許人ニ對スル露國政府ノ特
 許條件ノ効力ニ干シ本意見書ノ見解ハ
 全然該認シテ徒々帝國ノ權利ヲ抑損
 スルモノト言ハサルヲ得ズ本意見書ニ依リ
 「セシオノフ」外三名ニ對スル特許條件中使
 用漢夫ノ數若同加入ノコト及借區轉貸ニ
 干スルモノハ何レモ免許人ニ對スル制限ニ違
 背スルハ政府ハ少シモ之ニ依リテ約束セラルル
 ノコトアリテ其ノ格外ニ低廉ナル税金ノコト

MT 5.2.17.13

709

MT 5.2.17.13

708

政府、對其制限、其ノ自由、變更スル能ハ
 サル所ナリトセリ然レドモ、セオノフ及「クラマレ」コ
 長期漢業特許ヲ見ル、何レモ現今實施ニ係
 ン海産規則及將來行政廳ヨリ發布スル
 規則、定々税金トシ納スルキコトヲ規定シ土地
 ノ地代、特許中、之ヲ定ムル漢業ノ税金ハ
 政府ノ定ムル現在及將來ノ規則ニ依ルキモノ
 ナル故、右ノ見解ニ從ルモ税金ハ之ヲ變更ス
 ルコトヲ得ルコトヲ多ク認ム其ノ免許人ノ對スル
 制限ト政府ノ對スル制限トノ干係ヲ考フ、
 此等免許人ノ對スル特許條件一本意見書、
 記スルカ如何シモ薩哈連島漢業ノ實務ヲ
 露國臣民ニ回收セトスル行政政策上ノ必要
 に出ルモノナカ故、其免許人ノ對スル制限ト
 政府ノ對スル制限ト相互ノ干係ヲ有シ特
 許全體ノ主旨ニ照ラシ不可分ノモノト云ハセシ
 得ル而シテ此等條件中使用漢夫ノ數外國
 人共同加入ノコト等、全然我主權ノ下ニ認定
 ス、カラスモノトシテ免許人ノ權利ヲ承認ス
 ル、當リテモ此等條件ノ當然無効モノナモ
 ノナリ果シテ然ルモ此等條件ト不可分ノ干係
 ヲ有スル低廉ナル税金期限經過後、於ケル

陸軍

MT 5.2.17.19

711

MT 5.2.17.19

710



免許人、優先権等政府に對し制限も又無効
たること一般の法理に照し疑わしき所より一歩進
り之を全権委員の交渉に徴するに從前の特
許條件を承認するに約せず却て帝國の
法律に服従するにキヨリ條件とし之を條約に
明記せしむるに其の所記法律に現行の
礦業規則及將來權を適用するに制定す
る法律に包含するにキヨリ勿論たるに其等法
律の規定に依り適當の税金を課するに其の
礦場を經營一切内閣臣民同一ノ取扱り為す
こと條約の主旨に適合するにキヨリ

陸軍

本件露國礦業免許人、礦場の權を民政長
官意見書に附記するに如く南部樺太に於ける
礦場、重要なる部分に在るに於て其の權を
書見解、如く税金の低減及期限経過に優
先権等政府に對する制限を承継するにキヨリ内
閣人、礦業に對し之に競争するにキヨリ得たる
事、南部樺太礦業、其の權を彼等に奪は
れ、結果として之にキヨリ契約期限後ト雖も其
其の礦業權を我に回收するに機會あり又一方
に於て其等礦場を買収せしむるに免許人
に於て是等要求するにキヨリ必す其の彼等ノ

MT 5.2.17.19

713

MT 5.2.17.19

712



妥協ヲ見ハ能ハズトシテ候
 之ヲ要スルニ本件漢業免許人ノ權利ノ全權吾
 負ト協約ノ基キ之ヲ承認スル外ナシトスルモ只
 ノ特許條件ノ効力ニ干シテ本意見書ノ如ク單
 純ト見解ヲ以テ輕々ニ其ノ權利全部ヲ確
 認スルコトナク法理ト協約ノ規定ト照
 我正者トシ權利ヲ主張シ然レハ買収ノ虞
 置ト出之ノ必要アリトス
 (附記) 本意見書末尾ニ添付スルコトニ
 凡テ戦中後之見方即漢業特許ノ標
 本及以テ多言見方中ノ論之カ多ク之ヲ
 是ナリト相定ムルコト終ハカトシテ
 陸軍

MT 5.2.17.19

715

MT 5.2.17.19

714

第三号

セミオノフ、デニビ、クラマレシコ及「ビリ」ワザカ
従前露國政府ノ長期免許契約ニ依リ經營
シタリシ南部樺太漁場ノ處分ニ關スル意
見書ニ對スル意見

別紙外務省向者ノ起草ニ使處分意見書ナシ
モノ、本官カ本年三月十九日付リ以テ陸軍大
臣ニ提出シタル意見ニ對シ反駁ヲ試ミタルモノト
認メテ外務省ノ處分意見書ハ積極說ヲ斷
定シ露國人ノ樺太ニ於テ漁業權ハ講和條
約第十條ノ規定ニ依リ確保セラルタルモノト推

陸軍

斷シ本官ノ意見ヲ攻撃スルノ先鋒トシテ左
ノ如ク提言セリ曰ク或ハ地域ニ對スル主權ノ
移動アリタルハトテ其ノ地域内ニ於ケル私權
ハ何等ノ影響ヲ受クンモノトハサント國際法
上ノ原則トシテ萬國ノ承認スル所ナリト即是
テノ國際法上ノ原則既ニ此ノ如クナルカ故ニ其
ノ例外ハ之ヲ證明セザルハカラストテ若クモ除外
例ニ對スル十分ノ證明ナキ限リハ原則當然ノ
適用アルモノト推定セラルモノトス云々ト是レ冠
履顛倒ノ議論ニ非スレテ何ゾヤ
一凡ソ權利ヲ主張スル者コソ權利ノ性質ヲ

MT 5.2.17.12

717

MT 5.2.17.12

716

5-0838

0069

證明セシハカクサノ一般法理ノ原則ナリ余輩
 ト雖モ主権ノ移轉ハ私権ニ影響ヲ及ボササ
 ルトト同意スル所ナリト雖モ露國免許人ノ
 長期漁業カ私権ナリヤ否ヤニ就テ意見ノ異
 々モナリ然レモ積極説ヲ為ス者ハ先
 以テ露國免許人等ノ權利ナルモノハ私権ナ
 リヤ否ヤノ説明ヲ為サズシテ却テ露國免
 許人等ノ權利カ講和條約ノ規定ニ依リ保
 護セラルハキモノニアラザルコトヲ論述セシトス者
 又自ラ主張セントスル權利ノ性質ヲ證明セシ
 メトスルコトナラスヤ私権ナルコト確定シテ後
 ナラハ講和條約ノ保護ヲ受ルルモノナリト主張シ
 能ハキモ保護ヲ請求スルハ先テ其ノ私権ナ
 ルコトヲ之ヲ證明セシハカクサノ講和條約ノ保
 護ヲ要求スル者十分ノ證據ヲ具備シテ之ヲ
 證明スル責任ヲ有ルモノナリ

陸軍

(二)沿岸漁業ノ開スル國際法ノ原則ハ沿岸領
 土ト同シク主権國ノ臣民ニ專屬スルモノナリ
 以テ外國人ノ之ヲ認ムルコトハ主権國ノ隨意
 ニシテ條約上ノ明確ナル約束ナキ限りハ主権國
 ノ主権ヲ制限スル能ハキモノナリ(コトハ氏
 國際法中漁業論)ホリハ氏國際法中國際地

MT 5.2.17.19

719

MT 5.2.17.12

718



役論及條約解釋論「少オカ」氏國際法
 中漁業論(露國人ノ漁業権カ講和條
 約ニ依リ我主權ノ下ニ保護セラルルモノト
 トリ論ズルモノ明カナル條約上ノ規定ニ依
 リ之ヲ證セザルカラス講和條約ニ依リ露西
 亞帝國ヨリ日本帝國ニ移動シタル主權講
 和條約第十條以外ニ日本ノ主權ニ對シ特別
 ノ規定アルナシ而シテ第十條ニ沿岸漁業及
 沿岸漁業ニ付日本ノ主權ニ制限ヲ加ハル條項
 アルニ權カ沿岸漁業ニ開シテ日本帝國カ
 普通ノ國際法ノ慣例ニ反シ之ヲ日本帝國臣
 民以外ニ認メザルカラス義務アリトスルハ
 日本帝國ノ主權ニ制限ヲ加フルモノナリ
 瞭ラニ特別規定ヲ要スルモノナリ講和條約
 第十條ニ職業及財産権トアルハ日英日米
 日獨向ノ通商條約等ニ於テ使用セラルル營業
 職業及財産等ノ文字ト大體同一ノモノトシテ條
 約上ノ解釋トシテ之ニ依リテ沿岸漁業以
 岸貿易又ハ鑛業ノ如キモノヲ包含アルトス
 者ナキコトハ人ノ知ル所ナリトス
 (三) 積極説ヲ為ス者ハ講和條約第十條ニ所謂
 「日本國ニ讓与セラルル地域ノ住民トアルハ居

陸軍

MT 5.2.17.12

721

MT 5.2.17.12

720

住人人民即千住所、假住所等、有る者ト
 解るる、稿當トスト云、モ日露講和談判筆
 記附録正武會見要録(第二百三十一頁)に、
 心、大講和條約第十條、住民の関る規
 定、我小村全權委員が讓渡地、住民二箇年
 以内、不動産賣却し、撤退せしむ、日
 本政府は、都念、依、日本臣民ト見做スト、提
 案、對し之、酷トト云、ウ、井ツ、意見、
 同意、せん、モ、ナ、ナ、ナ、以、單、之、業、時、期、
 限、來、住、人、者、ノ、如、キ、又、一、居、所、假、住、所、有
 る者、ノ、如、キ、日本臣民ト見做ス、キ、理由、ト、ナ
 ラス、始、メ、リ、提、案、ノ、住、民、ノ、意、義、中、ニ、ア、ラ、サ、ル
 所、ナ、リ、故、ニ、此、ノ、住、民、ト、日本臣民トモ、為、し、得、
 キ、生活、情、態、ア、ン、マ、ト、リ、必、要、ト、シ、法、理、的、ニ、説、明、ス
 ルト、キ、ハ、生活、ノ、中心、点、ハ、民法、上、ノ、住、所、ト、判、断、
 地域、内、ニ、有、ル、コ、ト、リ、必、要、ト、ス、ル、ト、シ、テ、之、
 普通、ノ、解、釋、ナ、リ、ト、ス、又、第、十、條、未、條、ノ、政
 治、上、又、行政、上、ノ、權、能、ヲ、失、ヒ、シ、テ、住、民、ニ、對、シ、テ
 退、去、ノ、命、ズ、ル、コ、ト、モ、住、民、ノ、意、義、此、ノ、如、ク、生活
 ノ、中心、点、ハ、民法、上、ノ、住、所、ト、有、ル、者、即、チ、我
 カ、讓、受、地、域、内、ニ、於、テ、何、時、ニ、テ、モ、我、カ、日本臣民
 ト、為、リ、得、ル、キ、生活、情、態、ニ、在、者、ニ、對、シ、テ、コ、ソ

陸軍

MT 5.2.17.12

723

MT 5.2.17.12

722

5-0838

0072

始行ハルキ規定トシテ假住所ノ住所等ノ
 如キモ多ク令ケトスルカ如キハ該條文ヲ無意義
 トスルシテ先モトス「アビタレ」イニヒタン
 ノ如キ俗用トシテ他ノ意味ト使用セラルルコト
 アケトスルモ之ヲ法學上ノ普通解釋及該
 條文ノ由リ生シタル情並ニ該條文規定ノ適
 用ヲ考フルニ積極説ノ云フカ如キ莫然然モ
 アラザルナリ

四) 積極説ノ漁業假規則ハ戦争繼續中交戦
 權ノ作用ニ依リ發布セラルルモノナリ以テ其ノ
 後ノ締結セラルル講和條約ノ規定ヲ左右ス
 キモノニアラストノ意見ハ本件ノ露國人カ講和
 條約第十條ノ保護ヲ亨クシキモノナリトノ假
 ノ下ニ成立シ得ルキモ先フ保護ヲ亨クシキモノ
 ルコトノ前提ノ証明ヲ要ス交戦權ノ作用ニ
 依リ假規則ヲ平和恢復後ノ法律タルヲ
 問フ講和條約第十條ノ規定ニ依リ保護
 ヲ亨クシキ住民ノ權利タルヲ決スルコトヲ
 必要トス交戦作用ニ依リ假規則ト雖モ保護
 ヲ亨クシキ能ハル住民ノ權利ニ就テハ何等ノ
 關係アリ

五) 積極説ヲ為ス者ハ本件露國人長期漁業特

陸軍

MT 5.2.17.13

725

MT 5.2.17.13

724



許す財産権ト為スノ既ニ財産権トシテ廣ク私法
 上ノ權利ヲ概稱スルモノトシテ以テ漁業権
 七私法上ノ權利トシテ財産権中ニ含マルル
 モノトシテ之ヲ除外シタルモノトモストモ
 如シ財産権ニ私法上ノ權利ナリトスルコトハ
 明瞭ナリトモ露國人長期漁業権カ私法上ノ
 權利ナリトシテ露國ノ法律ニ依リテ然ルニ
 國人長期漁業特許ノ實質ヲ調査スルコト
 ハ却テ私法上ノ權利ニアラスレテ行政官上
 ノ特許ナリトモ明瞭ナリトスルモノトモ
 特許條條第四條、第六條「クマニ」ニ特許
 件 第四條、第六條、第九條ハ該長期漁業特
 許ノ要件タリ以テ之ヲ知ルニ則テ露國
 人ナカド之ヲ特許シ露國人ニテモ一般
 的ニ之ヲ「セ」オノク又「ク」ラマレ
 特許シ及一定數以上ノ露國人ヲ漁夫トシテ
 使用スルコト、營業管理者ヲ露國人ニ限
 ト、外國人則テ日本人ヲ共同營業者ト為
 尤「ト」ノ實質ナリ之ヲ特許シ從テ自由
 分ク禁止ス行政上ノ要件ヲ具備スルコト
 時、私法上ノ權利タリトモ性質ク不
 處分意見書自ラ曰ク「セ」オノク高會

陸軍

MT 5.2.17.19

727

MT 5.2.17.19

726

5-0838

0074

「クマレ」の「特許條款」は幾多我々の不利益
 たる規定を包含するは是れ「陸海軍特許法」
 實権を露國臣民に回收せしむる精神に
 露國の政策として固く當然の事理に屬す
 止知んして一度該特許の實質を調査せん
 トキの自ラ行政政策上の特許として私法
 上の權利を有するモノトシテ、積極的を為す者
 の「商業特許」一般に公権たる「私権」ナリヤテ決
 定せしむるヲ以テ或ハ疑義を生出しテ感心し
 りしハ、雖モ本件は商標の問題として調査
 せんトキの自ラ明瞭なり、主権の移轉を信
 ずる私権に何等の影響を與へず私法上の
 權利に就テ之を行政上の特許たる本問
 題に適用せんモノトシテ許せんモノナリ
 六加之露國人ノ長期漢業特許に我々主権
 下に認容スルカ多ク其條件アリ、之を
 ノ下高令長期漢業特許及「クマレ」は長
 期漢業特許に其ノ實質行政政策的ノ特
 許として私法上の權利を有するモノトシテ前
 述ノ如し而して其ノ行政政策的ノ實質條
 件タルハ、權を我々主権の下に全然
 認許スルカ多ク其モノトシテ之を此点

陸軍

MT 5.2.17.19

729

MT 5.2.17.12

728



於之、長期營業權ヲ認め、積極説ノ
 者モ首肯スル所ナレシ。然レ、特許條件ハ
 不可分ナリ、而カモ其ノ特許ノ重要部カ
 此ノ如ク我カ主権ノ下ニ於テ認容シ得、カ多ク其
 性質見以上ニ露國ノ長期營業特許ノ到
 底無效多ク其カ多ク、私法上ノ權利ニシテ其
 モノニ法律上ノ如ク結果生ズ、キハ當然ニ
 之ヲ已ムコト得、其ノ亦以テ私法上ノ權利
 ニアリ、其ノ返納ハキナリ
 之ヲ要スル積極説ノ取ルニ足ラズ、其ノ知レシ
 領土主権ノ移動カ其ノ地域内ノ私権關係ヲ
 變更スルコトナキコトハ國際法上明瞭ナル原
 則ナレトモ露國ノ長期營業特許ノ私権ナル
 コトハ證明セラレサレ、其ノ實質見見ルコトキ
 我カ主権ノ下ニ認容ス、カ多ク其行政政署上
 特許ナリトス
 七) 積極説ヲ為スモノハ日露講和談判筆記
 附録非正式會見要録ニ依リ、小村全權委員
 カ「少井」氏ニ對シテ「營業權ヲ認め、旨ヲ
 答、其カ如キ説ヲ為セトモ、右非正式會見
 要録ヲ見、少井」氏「現ニ或年限
 間官憲ト特約ヲ結ビテ水運業ノ特權ヲ

陸軍

MT 5.2.17.12

731

MT 5.2.17.12

730



有るモノアリカモ此等特権ノ有るモノアリセオ
 ノ高層外一ニシテ極少ノ教ナシハ實際
 於テ在リ且大事件多クサハモ免ノ角現
 任氏ノ是上ノ有リ居ル所ニ格及營業権ニ至
 格ノ移轉ニ拘ラズ之ヲ尊重スルニトモト為サ
 凡カラス云々ト説キタルニ小村男爵ノ日本ノ
 法律ニ服従セシムルノ條件ノ下ニ於テ該
 地ニ存在スル露國臣民ノ所有格及營業権
 ノ尊重シ且權利ヲ欠ク者ノ對シテモ所有
 権ヲ侵害セザルキト約スルハ是又十中
 以テ左様ニ取計公ニ答ハルモノアリ之權

陸軍

太ニ於テ露國臣民ノ財產格ノ尊重スルキト
 約シタルニ過キスル則テ財產格ノ之ヲ尊
 重スルキト約シタルニ過キスル長期營業特許ハ
 曩ニ本ノ見カ如ク行政上政略上ノ特許ナリ以
 上ノ之ヲ尊重スルニ及バズ故ニ小村男爵ノ直
 ニ營業特許ヲ尊重スルキト約シタルモノト
 解スルカラス以テ「ウキアテ」氏ノ請求ニ及
 小運業人オチ「ル」因際仲裁裁判カ條約規
 定ノ解釋ニ關スル單純九法律問題トシテ
 之ヲ解決スルモノナラズ且解決ニ善セムコト
 希望スル所ナリ

MT 5.2.17.19

733

MT 5.2.17.19

732



漢業特許の政署上、特許たゞ以テ漢業
 者、對之制限ヲ実行セシメ先爲メ税金ヲ低
 廉ナラシメ先モテ漢業者、對之制限ノ
 寛恕ハ政府、對之制限ノ寛恕ト相伴ヒ其ノ
 關係相互的ナラカス則チ漢業者、
 對シテ制限ヲ解除セシ税金ハ増カセカス
 昔如漢業特許ノ講和條約十條ノ確保ス
 ル所ナリト規定スル日本國ノ法律及管轄
 權ニ服從セカス日本國ノ法律ニ服從ス
 上日本漢業者ト同一ノ取扱ヲ受クハキコト
 解釋シテ可キ様也漢業ハ凡チ其ノ漢
 業料ニ入札ニシテ之ヲ定メ法律トス故ニ入
 札ニシテ評定スルハ漢業料額ハ密國漢
 業者、其ノ漢場ヲ交付スル日本人、其ノ漢
 場ヲ徵收スルモノト同額モシテ税金トシ
 テ徵收セカスカス是則チ日本法律ナリ
 テ概テ之ヲオコシ高倉長烟漢業特許ニ條
 フラマシニ昔烟漢業特許第二條ヲ見ル
 現ニ實施行中ニ拘ルハ海產規則日將奉行
 政廳ヲ以テ布スル法規規則ヲ遵奉シ之
 依リテ税金ヲ納メトシテ規定シ土地賃用
 ノ地代ハ特許中、之ヲ定メテ漢業ノ税金

陸軍

MT 5.2.17.12

737

MT 5.2.17.12

736

5-0838



其ノモノハ政府ノ定ル現在及将来ノ規則ニ
依ルモノトシテ特許條件ヲ変更スルヲ容テ
産金増加又ハ減少シ得ルキヲ故ニ
業特許ヲ追認スルトスルモ漢業料ハ日本人
同様ノ法規取扱ニ依リ入札額ヲ標準ト
シテ徴收セザルカラスナリ唯タ日本人モ課
セザル高率ノ税金ニテ課スル積蓄ヲ失
スルコト論ナリト雖モ入札ニ依リ評定セズ
ハ漢業料ヲ課スル政府ノ權利ニテ日本
ノ法律ニ服スルモノハ日本人多ト露國人
多トノ同ク其ノ義務ナリト云

陸軍

終リ露國人長期漢業特許ヲ認允ハ沿海
州漢業格ヲ獲得セリトスル外交上ノ便宜
ニ利用セシコトハ其ノ策妙巧ナカシト
モ一考ヲ要スルキ点ナリト信ス則チ露
國人長期漢業特許ノ終リト共ニ我カ
露州ノ漢業直ニ停止セリトキ運命ト
ナリ草莽ノ際キ漢場ク開スルノ方々
ニテ其ノ利ハ失フニ終ルニキ身之無シト
セ尤ナリ故ニ理論上認リキ理由ナキ限リ
可成他ノ外交上ノ手段ニ使用セザルコト
ヲ希望ス

MT 5.2.17.19

739

MT 5.2.17.19

738



因、曰りつ分「カ長期漁業特許」有るコト
 上、何等之ヲ認るキモノナリ、其ノ特許條
 件ヲ見ルニ、アラスカ州ニ對スル意見ヲ
 陳述スルコトヲ得ル點モ、ヒクソク
 カ日露交戦前、長期漁業特許ヲ
 受ケル者、アラスカ州ノ事、其ノレテ
 交戦中、其ノ特許ヲ受ケルモノト
 セ、樺太ノ地域、其ノ領土、帝國ノ領地
 外、心算ナリ、其ノ交戦ノ終、依リ、其
 國、露領スルキニ、出ルキヲ、豫想シ
 露國古、其ノ領土、其ノ領土、其ノ領土、
 陸軍
 ト、相違シ、得、し、何、ト、其ノ、樺、太、ノ、領、土、其
 國人、カ、日本、領、土、ヲ、使用、セ、ル、キ、ハ、漁、業、ヲ
 受、ケ、ル、事、ニ、不、可、行、ト、爲、リ、現、在、
 交戦中、其ノ領土、其ノ領土、其ノ領土、
 あり、爲、ル、カ、め、キ、其ノ、理、由、ハ、カ、ラ、サ
 几、ク、ツ、ク、其ノ、如、キ、漁、業、特、許、ヲ、受
 其、意、見、ヲ、其ノ、領、土、其ノ、領、土、其ノ、領、土、
 常、識、ニ、有、ル、コト、ナ、リ、其ノ、他、ノ、條、約、ト、直
 認、テ、其ノ、領、土、其ノ、領、土、其ノ、領、土、
 其ノ、領、土、其ノ、領、土、其ノ、領、土、

MT 5.2.17.12 741

MT 5.2.17.12 740 *



又セメオノク「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 従前亦不取存ノ下、経堂ニケル増場敷
 「セメオノク」カキニケル「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 ケツ「ビクワヤ」知「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 留「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 オ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 札「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 出「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 留「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 業料半「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 上「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 々「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 料「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 増敷「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 七「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 下「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 上「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 大「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 傍「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ
 ク「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ「クラマ」コロ「及」ビクワヤ

陸軍

MT 5.2.17.13

743

MT 5.2.17.13

742

5-0838



可んくつては、其時大徳寺に在りて
 形事しつて、見たり、其の確たる由
 十千と、物つて、不吐、浮、時、え、候、宜、上、る
 大に、有、り、人、を、見、り、し、上、り、梅、有、り、候
 業、の、時、多、く、候、時、日、本、人、の、手、止、え、り
 ナ、リ、梅、有、り、候、時、及、候、宜、上、り、候、期
 之、事、ト、候、時、尤、し、る、一、局、ノ、一、カ
 何、れ、ト、し、候、時、祝、す、ハ、ナ、リ、ア、リ、ス
 明、治、三、年、の、事、也、ト、云、フ
 梅、有、り、候、時、及、候、宜、上、り、候、期、ト、云、フ

陸軍

MT 5.2.17.13

744

5-0838



明治 廿九年 九月二十八日
通商局 取調課
日發通

局長 兼 主任
兼 主任

大臣 兼 署長

政務局 主任

署名

南部樺太漁場ノ慶分ニ関スル外務省意見書ニ

對スル能言長官意見書摘要

第一點 與取ノ責任ハ權利ヲ主張セトスル當業者ニ在リ外務省意見

機密

見書以下單ニ見書ト稱ス如ク露國免許人等ノ權利カ私權ナルヲ認メ

外務省

シテ却テ消極論者ヨリシテ十分ノ説明ヲ提呈セシメトスルハ非ナリ

第二點 沿岸漁業ハ自公長ニ專屬スルニ國際法ノ原則アリ明白ナル

條約上ノ規定ニ非スルハ主權國ノ權能ヲ制限スヘキモノニ非ス講和條

約第十條ニ示シテ漁業及沿岸漁業又ハ鑛業等ヲ包含スルモノ

ニ非ラズ故ニ同條ノ規定ヲ以テ前記主權者ノ權能ヲ制限シルモノトハ解ス

ハカラス

第三點 割讓地域内ノ住民トハ同地域内ニ住所假住ト等ヲ有スル者ト

MT 5.2.17.19

746

MT 5.2.17.19

745

0004

5-0838

解スヘカラス民法上ノ住所ヲ有スルモノナラザルヘカラスハ事ハ條約案制定
ニ依リヨリ去ルモ明白アリ

第四點 文藝作用ニ依ル假規則ヲ以テ講和條約ノ規定ヲ左右スヘカラスルモ
ノ辯ハ亦國免許人等カ條約第十條ノ保護ヲ受クヘキ住民ナルヲ改
セサル又ハ魚用ノ辯タルヲ免レヌ

第五點 亦國人長期漁業權ハ行政上ノ特許ニテ私權ヲ設定スルモノニ非アル
ニハ特許條件申一定數ノ要ム漁夫ヲ利キルヲ要スル下、借込讓渡ヲ容
外務省

止シタル下、特許ノ自由ヲ制限シタル下、外人共同經營ヲ許ワル下等
特別規定アリ
依リヨリ白事財產權ニ非アル以テ

第六點 特許條件ハ不可分ナリ而モ其條件ノ重要部分カ我主權ノ下ニ在テ
認容セらハカラスハ特許ハ我民法ノ下ニ全部無効ナルモノ宣言セ
サルヲ得ヌ

第七點 講和條約ニ依リ委員會是認ノ記事ニ出ラスハ小村全權委員
前記ノ如キ特許條件ヲ具備スル長期漁業權ノ追認ヲ約束シタル

MT 5.2.17.12 746

MT 5.2.17.12 747



モト謂フヘカラス且財産権ヲ重クシテ我邦法律ニ從フ條件アリ
 假^権ニテ漁業ヲ確信セシトモ税金其他漁業徑管ハ日本^ノ漁業者
 ト同ナラザルハカラス意見具呈ニ言フ如ク免許人ニ對スル制限ハ自由ニ變
 更シ得ヘク政府ニ對スル制限ハ自由ニ變更シ得ヘカラストスルハ双方義
 務ノ關係相互的ニテ各國ノ特許條件ハ不^レ同ナルトモ忘ル^レズ
 日本謂フ^レカラス

外務省

MT 5.2.17.18

749

5-0838

0086

野村

陸軍省 密發第二八二號

送達 陸軍省 密發第二八二號

政務局

明治三十一年九月十八日

陸軍次官 石本新六

通商局

外務省 珍田珍巳殿



密發 1950 號

大臣 次官

樺太島に於て先元露國漁場ノ借込者
セメノフ及マデシビノ兩人就章前
ヨリ貯蔵セシ海藻類ヲ取リ厚同
島ノ漁船派遣ノ義付極密送付

陸軍省

一二〇号ヲ以テ照会ニ起リ
付別紙甲号ニ通同島民政長官
ノ意見同令多ク起別紙乙号ニ通同
局有之ヲ就テ一應責有ル意見
系加致彼等段及照会ス

MT 5.2.17.12 751

MT 5.2.17.12 750



新加坡、
一九一五年

甲子

局長、構太氏、政長、宛、電、報、奉、
支那、國、臣、民、セ、ム、ラ、シ、テ、シ、ン、ビ、ー、ヨ、リ、戦、争、前、換、場、借、道、内、
特、シ、ラ、ウ、カ、カ、地、方、に、貯、存、セ、ル、海、陸、軍、兵、隊、引、込、ノ、為、メ、初、次、
船、傭、入、レ、派、遣、シ、タ、キ、方、願、出、ル、証、書、公、使、ヲ、外、務、省、ヲ、經、テ、
與、會、シ、テ、回、答、シ、都、合、ス、ル、意、見、先、方、お、し、よ、レ、

陸軍

MT 5.2.17.12 752

乙子

電文 譯

外務省、理、方、長、

構太氏、政長、宛、

九月二十日、
六、三、三、外、務、省、
七、二、〇、外、務、省、

露、人、シ、ム、ラ、シ、テ、シ、ン、ビ、ー、ヨ、リ、遣、留、海、陸、軍、(主、シ、ル、布、ナ、リ)、二、家、外、に、
積、込、ル、為、メ、既、ニ、腐、敗、シ、テ、在、代、人、に、交、シ、テ、他、に、責、任、を、負、担、ス、ル、
ナ、リ、又、露、人、海、陸、軍、兵、隊、に、執、行、シ、テ、貴、地、方、に、人、心、頗、ル、激、昂、
シ、タ、ル、為、メ、海、陸、軍、兵、隊、を、コ、ト、ア、リ、テ、不、穩、ノ、考、動、ナ、キ、ヲ、
保、シ、難、シ、依、ラ、シ、テ、果、等、ヲ、派、出、シ、シ、メ、テ、構、太、氏、宛、に、電、報、ヲ、奉、報、シ、

陸軍

MT 5.2.17.12 753



明治 年 九 月 廿九 日
大臣 日 發遣

主任 市 茂 地

次官

在本邦各國公使宛

其外各務也

廣

セモノフ及デビ「海藻類引取」為汽船派きノ行ヲ得ル旨

要再

家公使ノ申出ニ答シ回答ノ件

機密

「セモノフ」及「デビ」兩氏ハ其舊區区特ニシテ地方ニ貯在セル海藻

外務省

類引取方者事奉事汽船自其自取ニ派きスル可ヲ得ル旨

閣下ニ依頼シタル意ニテ該許可證閣下ニ申付テ申取去九月ハ月附

才六一三號ヲ以テ申出ニ本邦政府ハ承取未示ニ致主官省ニ照會

取立ル事々般日有由本邦内閣ニ様外日取事

報事 在左方ハ其舊區區ニ在セル海藻類ノ分ニ堆積シアル也

ノ有取歸代理人ニ於テ既之ヲ賣渡シタル模様

權未定為同地ノ人ハ其舊區區ニ在セル海藻類ノ事アリハ其

自校 自校 自校 自校

MT 5.2.17.19

757

MT 5.2.17.19

756

5-0838

0090

外務省

船隻の保護に因り本件汽船は止儀不具合

前記の如き陸軍省に回答致すに在り

前記の如き陸軍省に回答致すに在り

前記の如き陸軍省に回答致すに在り

表に委ねる

外務省

MT 5.2.17.12 758

5-0838

0091

The clause was taken from Article V of the Russo-Japanese Treaty of 1875, regarding the exchange of Saghalien and the Kurile Islands.

the latter

Interpreting ~~that~~ stipulation, the Russian Government have held that ~~that~~ the engagement did not apply to Japanese subjects who were not ~~residents~~ ^{permanently domiciled in} of the ceded territory.

permanently domiciled in

Semenoff & Denbigh are described in their concession as "merchants of Vladivostock" and it is known that they are not inhabitants of Southern Saghalien.

The Japanese Authorities in Saghalien have decided that the concession ^{in favor} of Semenoff & Denbigh is not protected by the Treaty of Portsmouth, and, looking at the strict legal aspect of the question and the precedent established by Russia under the Treaty of 1875, it is difficult to see how it would be possible for the Imperial Government to do otherwise than confirm the decision of their Authorities at

MT 5.2.17.19

760

Rotsakoff

去
記

If, however, the Imperial Government, in view of the representations of the Imperial Russian Government, should, in a spirit of ~~perfect~~ conciliation, conclude, in a measure, to waive their strict legal rights and give some consideration to the equities of the case, it will be necessary to have ~~it~~ clearly understood that the resolution to do so, being spontaneous, creates no rights, imposes no obligations and establishes no precedents.

The Guaimusho,

Tokio, October, 1906.

MT 5.2.17.19

759

properties ceded to Japan in full sovereignty.

If it could be said that the concession in favor of Semenov & Denbigh, operating as a dismemberment of the ceded rights of property, was entitled to be continued under the new sovereignty, it could ~~be~~ only be so continued on condition that it was subject exclusively to the laws of Japan, because, by the rules of international law, the laws of Russia, (other than purely municipal enactments) ceased to have force in Southern Saghalien from the moment the territory was transferred, and because, by the express provisions of Article X of the Treaty of Portsmouth, submission to the laws of Japan was made an essential prerequisite to the exercise by Russian subjects of any industry^{ies} or rights of property in the ceded regions. In that case, it would be necessary to submit the concession to a careful analysis in order to as-

it would have to be admitted that it

MT 5.2.17.12

762

certain whether it could be reconciled with legal requirements, for if it were found to be repugnant to the laws of Japan, (especially the laws relating to public security; police; revenue, and industry,) it would, to the extent of such repugnancy, remain null and ineffective.

But such an analysis is unnecessary at this time. The concession is inadmissible for another reason.

The individuals in whose favor and for whose exclusive benefit the protective clause of Article X of the Treaty of Portsmouth, was made, are those Russian subjects, inhabitants of the territory ceded to Japan, who preferred to remain in the ceded territory. It does not extend, neither was it intended to extend, to Russian subjects who are not inhabitants of the ceded territory or who, being inhabitants of such territory, have elected to retire therefrom.

MT 5.2.17.12

761

大臣閣下
外務省
為達

MEMORANDUM.

Article IX of the Treaty of Portsmouth, provides:-

The Imperial Russian Government cede to the Imperial Government of Japan in perpetuity and full sovereignty, the southern portion of the Island of Saghalien and all islands adjacent thereto, and all public works and properties thereon.

And Article X of the same Treaty, declares:-

It is reserved to the Russian subjects inhabitants of the territory ceded to Japan, to sell their real property and retire to their country; but, if they prefer to remain in the ceded territory, they will be maintained and protected in the full exercise of their industries and rights of property, on condition of submitting to Japanese laws and jurisdiction.

MT 5.2.17.12 764

Messrs. Semenov & Denbigh, Russian subjects, appealing to the latter of the foregoing stipulations, claim, in virtue of a concession granted ^{to them} by the Russian authorities, prior to the cession of southern Saghalien, the exclusive right to exploit certain fisheries along the coasts of the ceded territory for the remainder of the period named in the concession, without any compensation except the payment of ordinary taxes.

The Imperial Russian Government, likewise invoking the provisions of Article X of the Portsmouth Treaty, support the claim of Semenov & Denbigh.

In these circumstances it is incumbent on the Imperial Government to consider most carefully whether, in view of the terms of the Treaty of Portsmouth, the concession in question is entitled to be maintained and protected.

The coastal fisheries in Southern Saghalien are a part of the public pro-

MT 5.2.17.12 763

aura passé la possession des territoires respectifs. —

Article supplémentaire signé à Tokio le 10^e août 1875: —

Conformément à l'article III de la Déclaration signée à St. Pétersbourg le ^{25 avril} 7 mai 1875, et pour compléter et développer l'article V du Traité signé le même jour quant aux droits et à la position des sujets respectifs restant sur les territoires réciproquement cédés...
..... sont convenus de ce qui suit:

Les habitants des territoires cédés de part et d'autre, sujets russes et japonais, qui désireront rester

domiciliés dans les localités qu'ils occupent actuellement, seront maintenus dans le plein exercice de leurs industries. Ils conserveront le droit de pêche et de chasse dans les limites qui leur appartiennent actuellement et ils seront exemptés leur vie durant de tout impôt sur leurs industries respectives.

MT 5.2.17.12

766

MT 5.2.17.12

765

5-0838

0095

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

子
コ
フ
キ
の
文
書
の
中
に
見
え
る

Article V du Traité d'échange de
l'île de Sakhaline et du groupe des îles
Kouriles entre le Japon et la Russie,
signé à St. Pétersbourg le ^{25 avril} 7 mai 1875. —

Il est réservé aux habitants des
territoires cédés de part et d'autre,
sujets russes et japonais, de conserver
leur nationalité et de rentrer dans
leurs pays respectifs; mais s'ils pré-
fèrent rester dans les territoires cédés,
ils seront maintenus et protégés dans
le plein exercice de leur industrie,
droit de propriété et religion, sur le
même pied que les nationaux, à la
condition de se soumettre aux lois et
à la juridiction du pays auquel

MT 5.2.17.18 767

「ロビン」の「照胸獸」捕獲回数

自千八百九十五年（即千九百零一年）迄千八百九十三年（即千九百零一年）

時、於「攪殺」の「照胸獸」は左ノ如シ

千八百九十五年 五十四頭

全 九十二年

全 九十三年 一五三頭

全 九十四年

外務省

全 九十五年 一三〇頭

全 九十六年 一四〇頭

全 九十七年 一二〇頭

全 九十八年

全 九十九年 五五〇頭

全 九百年 五〇七頭

右ノ内「攪殺」の「照胸獸」ノ平均を以て算出ス

MT 5.2.17.12 769 MT 5.2.17.12 768



十三號ハ十二ノ一號ノ市價ニテ五月ノ末日
七千。七月ノ末日ヲ得ルハ「カサカ」カニ商工業ノ社
ハ千九百一十一年ノ六月一日ヨリ十年間トシ
下ル年ト群島及ロバニ高ニテ「解融」
及其他ノ獸種殺ノ時「新」ヲ得ルハ千
九百一十一年ノ七月一日ヨリ十年間トシ
「了」年即九百一十一年「了」六ヶ月
外務省
授殺書ノ前記十年間ノ權殺書ノ準
ニ收積書ノ種年ノ「了」年ノ準
六十年間權殺書 價 格
四百九十八 圓 二、四、五〇

MT 5.2.17.12 771 MT 5.2.17.12 770

5-0838



極秘

南支洋太露人長期借入

人名 漢區數

露國納ノ日本名使、一、二年取、一、二年

備考

タリチ

二一三五〇〇 一五九四〇八 四四八八〇

六九二五〇 八〇〇〇〇

タリチ

一九 一三五〇〇 四六七二 一七四六八

二五〇二 前永徳

タリチ

二二 一三五〇〇 一三三三七 二六九〇六

四七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百

合計

四六 四四七〇 三三〇六 八六三三四 一六二四六

在外露人借入名目を建物にシテ日本在露人没収シタモノ

外務省

借入額約 三万五千

MT 5.2.17.12

773

MT 5.2.17.12

772



及評價額

自千八百九十一年至千九百零一年年同ロツベシ (千九百零一年) 馬に於て撲殺シタル臘酌獸ハ六十九頭	千八百九十一年	五十四	頭
千九百零一年	一五三九		
千九百零二年	一三〇〇		
千九百零三年	一四〇〇		
千九百零四年	一二〇〇		
千九百零五年	五五〇	外務省	
千九百零六年			
千九百零七年			
千九百零八年			
千九百零九年			
千九百一十年			
千九百一十一年			
千九百一十二年			
千九百一十三年			
千九百一十四年			
千九百一十五年			
千九百一十六年			
千九百一十七年			
千九百一十八年			
千九百一十九年			
千九百二十年			
千九百二十一年			
千九百二十二年			
千九百二十三年			
千九百二十四年			
千九百二十五年			
千九百二十六年			
千九百二十七年			
千九百二十八年			
千九百二十九年			
千九百三十年			
千九百三十一年			
千九百三十二年			
千九百三十三年			
千九百三十四年			
千九百三十五年			
千九百三十六年			
千九百三十七年			
千九百三十八年			
千九百三十九年			
千九百四十年			
千九百四十一年			
千九百四十二年			
千九百四十三年			
千九百四十四年			
千九百四十五年			
千九百四十六年			
千九百四十七年			
千九百四十八年			
千九百四十九年			
千九百五十年			
千九百五十一年			
千九百五十二年			
千九百五十三年			
千九百五十四年			
千九百五十五年			
千九百五十六年			
千九百五十七年			
千九百五十八年			
千九百五十九年			
千九百六十年			
千九百六十一年			
千九百六十二年			
千九百六十三年			
千九百六十四年			
千九百六十五年			
千九百六十六年			
千九百六十七年			
千九百六十八年			
千九百六十九年			
千九百七十年			
千九百七十一年			
千九百七十二年			
千九百七十三年			
千九百七十四年			
千九百七十五年			
千九百七十六年			
千九百七十七年			
千九百七十八年			
千九百七十九年			
千九百八十年			
千九百八十一年			
千九百八十二年			
千九百八十三年			
千九百八十四年			
千九百八十五年			
千九百八十六年			
千九百八十七年			
千九百八十八年			
千九百八十九年			
千九百九十年			
千九百九十一年			
千九百九十二年			
千九百九十三年			
千九百九十四年			
千九百九十五年			
千九百九十六年			
千九百九十七年			
千九百九十八年			
千九百九十九年			
千九百一千年			

四〇九八

一〇二四五〇

MT 5.2.17.12

775

MT 5.2.17.12

774



大臣 菅 3114 No.

東京 25日 本都發 三九二〇 四後二二五五 本省著

林 大臣 本野 公使

通商

人事

會計

信ズバキ妙助ヨリ因々聞キ込ミタル所ニ
依レバ南樺方ニ於ケル露國人クヲマシ
コ以下、漁業權ノ問題ニ關シ在日
不露國公使、閣下ヨリ満足ナル即
回答ヲ得タル旨當國外務大臣、
電報ニ來リタル由ナリ右ノ事實ナリヤ

MT 5.8.17.12 776

樺太に樺太の海沿いの漁業權のト有る所ニ

往電ニ三ツテ以テ請訓ニ置キタル次第
モアルニ付本官心得ノ為ノ至急申
口報アリタシ

MT 5.8.17.12 777

0101

5-0838

大正

25

以務の上
學
持右培
電送第 2505 號
明治39年10月10日 2時15分

次及

電行

林大正

テ九九

テ九九
テ九九
テ九九

機密
要再回

テ九九
テ九九
テ九九

外務省

果トシテ「デンビ」セメク「有民」ハ「吾」契約「書」ヲ
樺太「民」政「異」ニ「出」シ「同」若「ハ」八「月」會「付」ヲ
以「テ」之「ヲ」認「シ」タ「リ」吾「ハ」有「五」百「付」ヲ「以」テ
病「後」使「リ」ク「ラ」マ「レ」シ「ハ」契「約」書「ヲ」又「テ」本
大「正」ニ「出」シ「タ」ル「ニ」由「リ」本「大」正「ハ」便「上」之「ヲ」依
軍「大」正「ニ」轉「送」シ「四」五「ヶ」リ「日」内「之」契「約」書「ハ」
未「タ」何「レ」モ「出」シ「ア」ラ「ス」ル「ニ」モ「電」報「一」三
七「号」具「申」モ「ア」リ「タ」ル「ニ」付「去」日「病」公「使」本「大」
正「ニ」會「合」ヲ「求」メ「本」件「ノ」理「ヲ」促「進」セ「タ」
ル「事」本「大」正「ハ」之「ニ」對「シ」テ「事」務「局」政「府」ハ「法」理「上」

MT 5.2.17.12

779

MT 5.2.17.12

778

5-0838

0102

おに不尼アリテ政府ノ主張ヲ認スルニ
 能ハサレトモ元本尙題ニ非シあるハ、論争
 ノ種子ヲ貽スルトハ甚ク好マサル也、何等
 の波ノ言片アルヤモ、難計ニ付本意ハ直接
 表出シテ、其ノ旨ヲ明カニシテ、其ノ旨
 ナル旨ヲ告ケ、其旨キタル次第ナリ
 右旨及意ノ由、内報ス

外務省

MT 5.2.17.12 780

5-0838



明治三十九年十月二十九日 起草

發遣

以務令告 生 會 主任 等

南部樺太島人田道村の件は十月十八日自外務大臣に呈する

使に書きたる趣旨は是れ好意の経緯を味するに違ふは概本

月十九日以後は神田地方に於て之を京中にて之に對して是れ海軍

部紙を以て使館に送るハ外務大臣に同日の時報に於て是れ

外務省

使に送られたる印法理の點を以て是れ帝國政府に於て是れ

ありて是れ政府の主張するに認むるに能はサル事ノ理由ヲ

説明せしむるモノナリ故に法理論として本件を呈するに便也アルト

日清の文好意の経緯及び其の交際之の最大其の事

年迄にハ備得アル事

MT 5.2.17.12

782

MT 5.2.17.12

781